

- 2016. Nov -

Special
kessyomo

一人ひとりが平和のかけら
peace by piece

設立15周年記念誌

TERRA RENAISSANCE 15TH ANNIVERSARY, MEMORIAL MAGAZINE.

* 結 晶 母 *

テラルネ

P04. 活動 15 年の総覧

- P04-05 すべての生命が安心して生活できる社会（世界平和）の実現を目指して
- P06-09 テラ・ルネッサンス活動の 15 年 平和に向けた一歩踏みしめて

P12. 海外事業の 15 年

- P12-P15 アジアとアフリカ支援の本質に迫ったそれぞれの 15 年
- P16-P17 自立を果たした受益者からのメッセージ
- P18-P19 政策提言コラム、現地関係者からのメッセージ

P22. テラ・ルネッサンスへ想いを寄せて（応援メッセージ）

- P22-P23 社会の視点とテラ・ルネッサンス
阿部守一（長野県知事）、西水美恵子（元世界銀行副総裁）、
田口ランディ（作家）、塚越寛（伊那食品工業株式会社）
- P24-P25 非営利セクターの視点とテラ・ルネッサンス
岩附由香（認定 NPO 法人 ACE）、駒崎弘樹（認定 NPO 法人フローレンス）
柏木宏（NPO 法人関西 NGO 協議会）、根本かおる（国連広報センター）
- P26-P27 協働の視点とテラ・ルネッサンス
木下正義（株式会社クリスタル）、黒川芳秋（株式会社 Kurokawa）

P28. 国内事業の 15 年、パート I

- P28-P29 モノがめぐる、想いがめぐる。めぐるプロジェクト
- P32-P33 大槌からひと針ひと針、想いを込めて。大槌復興刺し子プロジェクト
- P34. テラルネグッツ（物販）
- P36. テラ・ルネッサンスへ想いを寄せて（支援者の声）

P36. テラ・ルネッサンスへ想いを寄せて（応援メッセージ）

- P36-P38 共感の視点とテラ・ルネッサンス
人見康裕（株式会社ヒトミ）、大浦敬子（ビュア・サポートグループ / 医療法人社団大浦会 理事長）
鈴木啓（株式会社良品計画）、池田郁子（会社員）
横山英樹（株式会社 NPS 成田予備校 / テラ・ルネッサンス千葉）
安里佳世子（大阪府立佐野高等学校）、西宮公平（秋田海陸運送株式会社）

P42. 国内事業の 15 年、パート 2

- P42-P43 講演でみつけたわたしの勇気
- P44-P45 未来を拓くファンドレイジング

P46. テラ・ルネッサンスへ想いを寄せて（応援メッセージ）

- P46-P47 インターンの視点とテラ・ルネッサンス
- P50-P51 内側の視点とテラ・ルネッサンス

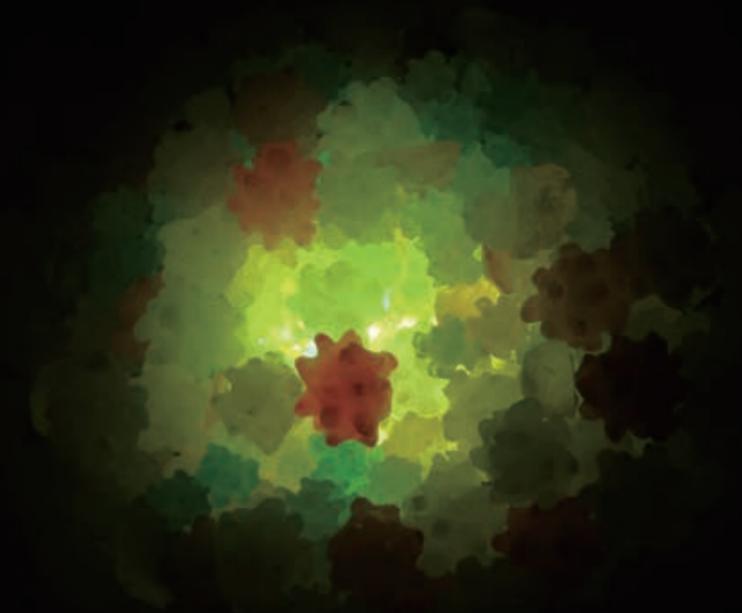
P54. 協賛パートナー

すべての人たちの「できること」と「できないこと」が、
まるで、凸凹が組み合わさるように、お互いを補い合い、
テラ・ルネッサンスは、15 年という一つの歴史を
積み上げることができました。

しかし、その凸と凹は、
機械のようにピッタリと合わさるものではなく、
その隙間にこそ、デジタルな論理だけでは説明できない、
「何か」大切な価値があると考えています。

有機的につながる自然界のように、一人ひとりのカケラは
多様な人たちとつながり合い、その時々で、
平和のカタチを明らかにしてくれるのです。

常に変化し続ける、光と影の中で、これからも
テラ・ルネッサンスらしさを忘れず、
豊かな時間を重ねていきたいと思えます。



すべての生命が安心して生活できる社会 (世界平和)の実現を目指して

15年間、変わらない願い。
それは「世界平和の実現」

京都・北区にある小さなアパート。4畳半一間でキッチン風呂なし。そこが、テラ・ルネッサンスの出発点。あるのは、中古で購入したノートパソコンと携帯電話、ネット接続用のPHS。それと「すべての生命が安心して生活できる社会(世界平和)」を実現したい」という想いのみだったのです。あれから15年。一人で始まったテラ・ルネッサンスは、多くの方々や団体のご支援を頂き、カンボジア、ラオス、ウガンダ、コンゴ(民)、ブルンジ、そして日本で活動を展開するNGOとして、成長することができました。活動内容も、地雷除去支援だけではなく、小型武器の不法取引規制、元子ども兵の社会復帰支援など、紛争に関わる課題に順次、取り組んでまいりました。活動地域、活動内容ともに成長するなかで、私たちがぶれることなく大切にしてきたものがあります。それが「すべての生命が安心して生活できる社会(世界平和)の実現」という、テラ・ルネッサンス

のビジョン(設立目的)。すべての活動は、このビジョンに少しでも近づくために実施されるものです。多様なスタッフで、多岐にわたる活動を展開する中でも、一貫性をもって活動ができるのは、常にビジョン実現に向けて「今、ここ」で、何をすべきかを、考え行動し続けてきたからだだと自負しています。

テラ・ルネッサンスが
大切にしてきた3つの取り組み

「すべての生命が安心して生活できる社会(世界平和)の実現」のために、テラ・ルネッサンスには、大切な3つの取り組みがあります。

(1) 支援 人が変わる

まずは、テラ・ルネッサンスが取り組む課題を抱えた地域、人々に対する「支援」です。できるだけ、一人ひとり、その地域の状況にあわせると同時に、支援対象地域や人々の問題解決能力を引き出すサポートに徹してきました。本来、地域や人々には、自らの課題を解決する能力(ちから)が備わっている

ものです。その能力が、いろいろな社会的な条件で発揮できていないだけだと、テラ・ルネッサンスでは考えます。だからこそ、支援の主人公は、問題を抱えた当事者であると考えられるのです。

(2) 啓発 心が変わる

次に、本来、人間の心のうちにある、「平和を求める想い」に気づいていただかための「啓発」です。地雷や小型武器、子ども兵など、私たちが取り組む紛争に関連する課題は、すべて人間がつくり出した課題。だからこそ、それらの課題を解決できるのも、人間(社会)なのだと考えたのです。つまり「戦争を止める。平和な社会をつくる」という意思(想い)に気づくことで、消費行動が変わり、紛争の原因になっている資源を企業が使わないようになるかもしれません。もしくは、投票行動が変わり、平和を希求する政治家を選ぶようになるかもしれません。「具体的な変化(行動)」は、「具体的な意思(想い)」を持つことから始まります。だからこそ、私たちが取り組む課題と、その原因をわ

かりやすくお伝えすることで、それらの課題と私たちの生活は無関係ではないことを自覚し、一人ひとりの行動(生活様式や投票など)を変えようと決意してもらおうべく、呼びかけ(啓発)を、現場での支援と同じくらい大切にしてきました。

(3) 政策提言 仕組みを変える

最後に、地雷や小型武器による被害をなくし、子ども兵を新たに生み出さない平和な社会を恒久的に実現するために、仕組み(制度)を変えていく「政策提言」です。人々の平和への意思を喚起すると同時に、目の前にある課題を解決するために、法律や条約など政治的な制度を変化させる必要性があります。たとえば、多くの犠牲者を出し続けてきた「地雷」では、NGOや良心的な国家の働きかけが功を奏して、対人地雷全面禁止条約を制定。地雷の製造、移動や使用は禁止され、地雷除去支援などに世界中の国が協力しなければいけなくなったのです。平和を実現するために、政治的な制度を変更、改正すること、もしくは新たな枠組みをつくることは、とても重要なことです。テラ・ルネッサンスは、世界平和というビジョンを実現するために、これら3つの取り組みを大切にしながら、国内外で事業を展開してきました。

真に、世界平和を目指すために。

次の15年に向けて

(中期ビジョンの策定)

設立から15年。テラ・ルネッサンスは、大切にしてきた3つの視点のうち、まずは「支援」に注力してきました。それにより、アジアでは7000人、アフリカでは3000人もの人々に支援を届け、問題に立ち向かう能力(チカラ)を発揮するサポートを実施することができたのです。そして、これからの15年はそれらの支援を拡充しつつも、支援現場で培ってきた経験や考えに基づいて、さらに「啓発」や「政策提言」に力を注いでいきます。地雷や小型武器、子ども兵問題に、誠心誠意、取り組んできた経験に、人々は耳を傾けてくださると信じているからです。さらに、テラ・ルネッサンスは、「すべての生命が安心して生活できる社会(世界平和)の実現」というビジョンに向けて、次の15年で目指すべき方向性を打ち出すことにしました。それが、【2031年までに、すべての子どもが紛争に巻き込まれない社会を実現する】という中期ビジョンです。未来を担っていく子どもたちが、紛争という理不尽極まりない不合理に巻き込まれない社会。そして、子どもたち一人ひとりの可能性を、誰にも阻害されることなく発揮できる社会を実現する。そ

うすること、結果として、真の世界平和に近づくことができると確信しています。

一人ではできないことだからこそ、

一人から始める

「すべての生命が安心して生活できる社会(世界平和)の実現」というビジョンも、そして今回、次の15年を見据えて策定した中期ビジョンすらも、途方もない「夢」だと仰る方もいらつしやるでしょう。けれども、現に世界各地で起きる紛争で苦しみ、希望をむしり取られる子どもたちがいるのは、「現実」なのです。これらの「現実」に向きあうことは、決して夢想ではありません。現実を変えてほしいという、子どもたちからの切実な要請なのです。その要請にこたえるには、今の私たちの能力や経験では、もちろん不十分です。そして、テラ・ルネッサンス単独ではその要請にこたえるのは難しいでしょう。だからこそ、テラ・ルネッサンスは成長するので。そして、一人や、一団体では実現が難しいからこそ、幅広い人たちや企業、団体の皆さまとともに、連帯をします。それは、まさに「平和」への連帯。その中核を担う覚悟で次の15年に向けて、テラ・ルネッサンスは一步を踏み出します。皆さまの平和を願う想いととも

平和に向けた一歩を踏みしめて

平和のために歩みを続けた15年の活動年表

2001

鬼丸昌也、講演活動を始め
テラ・ルネッサンス（任意団体）設立



カンボジアで地雷撤去支援事業を開始

2003

国内事務局でインターン募集を開始
NPO法人格を取得
ウガンダのカンバラ市にウガンダ事務所を開設（2008年閉鎖）
『僕は13歳 職業、兵士。あなたが戦争のある村で生まれたら』
（鬼丸昌也・小川真吾 共著）出版

2005

『メディア』TBS『筑紫哲也ニュース23』

2006

カンボジアのバタンバン市にカンボジア事務所を開設

2007

コンゴ（民）にて、子ども兵の現地調査を実施
現地NGOと提携し、元子ども兵社会復帰支援を開始
ラオスにて、不発弾処理支援および
中学校建設事業を開始
『こうして僕は世界を変えるために一歩を踏み出した』
（鬼丸昌也 著）出版。



2008

ウガンダの元子ども兵社会復帰支援事業で
38名が（1・2期生）卒業

2009

国内各地において、設立10周年記念イベント開催
クラスター爆弾禁止条約第一回締約国会議
（ラオス・ビエンチャン）へ参加



2010

テラ・カフェ（定期活動報告会）開始
インターン これまでに50名を受け入れ
小川真吾、理事長に就任

2011

『大槌復興刺し子プロジェクト』運営開始
武器貿易条約国連会議（ニューヨーク）へ参加

2012

【受賞】独立行政法人国際交流基金「地球市民賞」
「ぼくらのアフリカに紛争がなくならないのはなぜ？」
（小川真吾 著）出版



photo by t.koshiba

2013

テラ・スタイル東京（定期活動報告会）開始
テラ・ルネッサンス千葉設立（千葉県内の支援者より）
ブルンジで元子ども兵および紛争被害者自立支援センター
住民参加型建設プロジェクトを開始

2014

認定NPO法人となる
【受賞】公益財団法人京都オムロン地域協力基金「ヒューマンかざぐるま賞」
エクセレントNPO大賞組織力賞ノミネート

2015

第4回「自由都市・堺 平和貢献賞」受賞
「僕が学んだゼロから始める世界の変え方」
（鬼丸昌也 著）出版

2016

インターン これまでに100名を受け入れ
【メディア】NHKスペシャル 戦後70年ニッポンの肖像
戦後70年を越えて日本人は何ができるのか

2016

【受賞】公益財団法人社会貢献支援財団「社会貢献者賞」
設立15周年記念イベント開催



ひとりの一歩が、1万人の支援へ

高校在学中に、スリランカの農村開発指導者のアリヤラトネ博士に、『全ての人に未来をつくる能力（ちから）がある』と教えられた鬼丸。2001年に初めて訪れたカンボジアで地雷問題に触れ、「すべての活動は『伝える』ことから」と、講演活動を始めました。そして2001年10月、当時、立命館の大学4年生だった鬼丸はテラ・ルネッサンスを設立。カンボジアの地雷撤去支援を始めました。こうして始まったテラ・ルネッサンスは、現在、アジア2か国、アフリカ3か国、そして日本国内で、主に地雷・小型武器・子ども兵の3つの課題に対して取り組んでいます。

アジア事業

地雷埋設地域を誇れる村に

設立当初から、カンボジアで地雷撤去支援を行ってきたテラ・ルネッサンス。地雷撤去

支援により地雷事故ゼロを目指すと同時に、地雷被害者の生活再建や地雷埋設地の持続的発展を目指して、村落開発支援を実施しています。事業開始から5年後には、バタンバン州にカンボジア事務所を開設、その後、カンボジアに駐在スタッフとして江角泰を派遣することとなりました。村人たちの自治によって村を発展させ、最貧困層の地雷被害者やその家族の生活をサポートする「カンボジア地雷埋設地域村落開発プロジェクト」では、村で毎月の自治会を開催し、3村で収入向上支援や基礎教育支援を実施してきました。2008年からは「地雷埋設地域小学校建設プロジェクト」を開始。これまでに4校の小学校と1校の幼稚園を地雷埋設地域の村に建設。希望の学校が完成しました。現在、600名以上の子どもたちが夢に向かって学んでいます。そしてラオスでも、2008年から活動を始めました。ベトナム戦争中、中立国であったラオスには世界一の量の爆弾が落とされ、今でも国内にはクラスター爆弾の不

発弾が多く残っています。テラ・ルネッサンスは現地の不発弾撤去団体と連携して不発弾撤去を支援し、撤去後の土地に学校を建設する事業を行ってきました。2011年11月には、ラオスで開催されたクラスター爆弾禁止条約の第一回締結会議に参加。そして撤去支援・犠牲者支援を継続すると同時に、ラオスの不発弾問題を啓発する漫画、『ラオスからのメッセージ』を作成しました。2016年度からは、不発弾撤去チーム1チームへの資金提供をスタートさせています。

アフリカ事業

私の存在が、誰かの支えに

世界には約25万人の子ども兵がいるといわれています。2003年当時、子ども兵を本格的に支援する団体は、国内には存在していませんでした。「それなら自分たちが」と、テラ・ルネッサンスとして取り組むことを決心し、子ども兵への取り組みを始めました。2005年からは、小川真吾がウガンダに駐在し、ウガンダ北部の内戦により子ども時代に誘拐され兵士として働かされてきた、元子ども兵の社会復帰支援を開始。

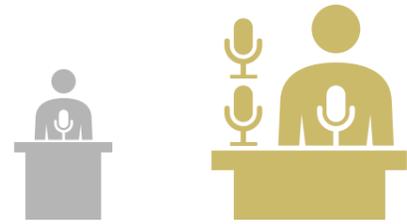
これまでに、帰還した元子ども兵の168名が3年間の職業訓練を受け、自立を果たしています。自立後は、自らの生活だけで

なく、家族や住んでいるコミュニティも支えられる存在になっています。現在は8期生33名が訓練を受け、夢に向かって歩んでいます。また2006年には、コンゴ民主共和国の、紛争の影響を強く受けている東部地域において、ウガンダでの支援の経験を生かし、元子ども兵や性的暴力を受けた女性たちへの支援を開始。武装勢力から襲撃を受け、虐殺が行われた地域への緊急支援も実施しました。2015年からは、ブルンジにて、長年、紛争の影響を受けた地域で養蜂の支援を始め、栄養価も糖度も非常に高い蜂蜜を生産しています。平和のハチミツという意味の「アマホロ・ハニー」と名付け、2016年からブルンジ国内で販売を開始しました。「この村のハチミツから、ブルンジの平和をつくる」そんな願いが込められています。

大槌から、ひと針に想いを込めて

2011年3月11日、東日本を襲った未曾有の大災害。その際、行動を起こしたのが、ウガンダ職員のアマホロ・マギーや、社会復帰の支援を受けてきた卒業生たち。日本円で5万円を集め届けてくれたのです。この金額は、ウガンダでは公務員の月給の8倍以上だといえます。「それで、あなたたちはどんな支援をするの?」彼女たちのそんな

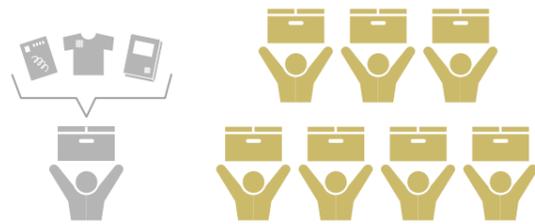
【平和教育・啓発の成果】
平和講話・講演回数の推移



60回/年 ▶ 177回/年
2004年度 ▶ 2015年度

小・中・高等学校や、大学、民間企業、行政などで、国際協力や平和をテーマに当会スタッフが行ってきた講演回数が累計1,292回(2004年から2015年)を超えています。また、年間講演回数は3倍に増えています。これにより、推定約1万人の方々に、地雷や子ども兵、小型武器の課題について伝えることができました。

【平和教育・啓発の成果】
自発的に行動を起こしてくれた人の数



760人 ▶ 6,320人
2013年度 ▶ 2015年度

8,278名の方々が、めぐるプロジェクトに参加し、書き損じハガキや古本、古着、古紙、アルミホイールなどを無償で提供してください、当会の活動を支えてくれました。また、112名の若者がインターン生として、181名がカンボジア・ウガンダへのスタディツアーに参加者として、多くの方々が当会のボランティア活動に関わってくれています。

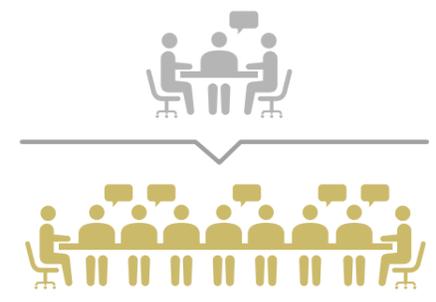
【アジア事業の成果】
カンボジア・ラオスの地雷 & 不発弾撤去実績



0㎡ ▶ 395,000㎡
支援前 ▶ 支援後

2016年までに39.5万㎡以上の土地の除去活動を行うことができました。これにより、3,400名以上の方々が安全な土地で暮らすことができるようになっています。撤去後の土地は、農地、学校、水道、道路などの農村に住む貧困層のために使用されています。

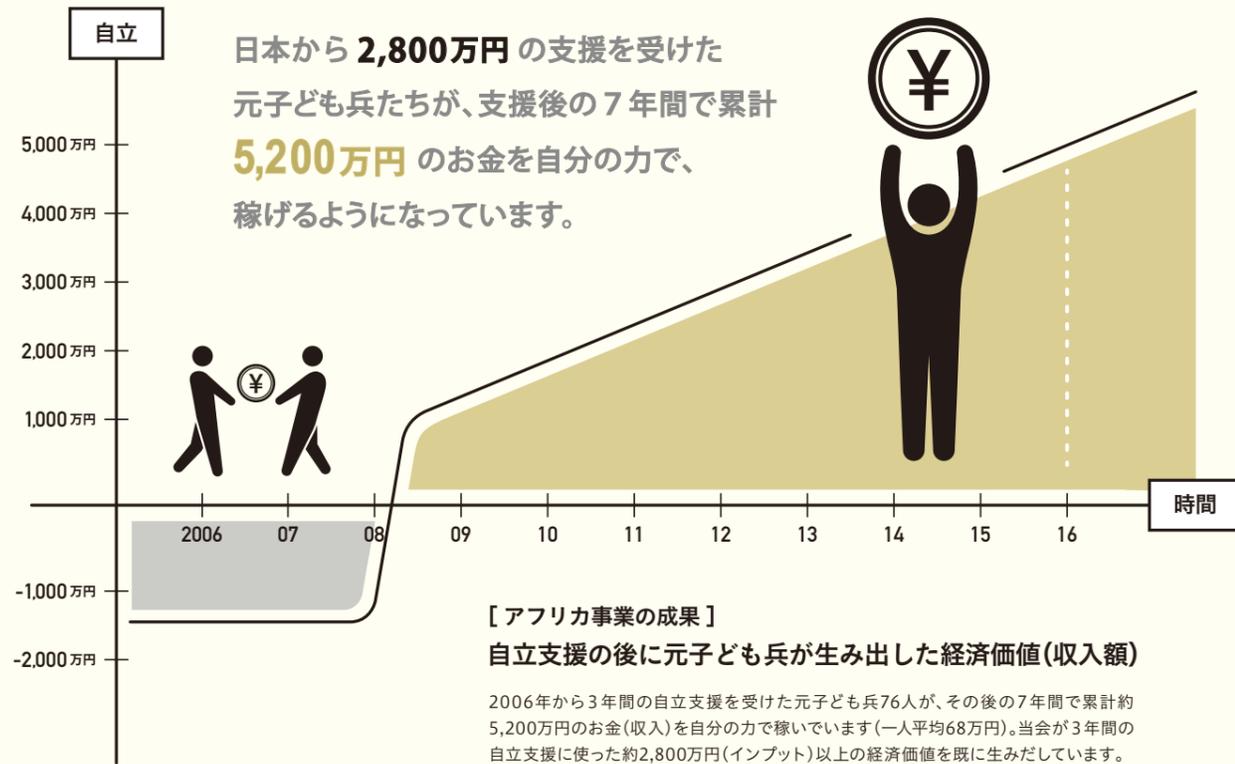
【アジア事業の成果】
ロカブス村、自治会参加者数



30人/月 ▶ 107人/月
支援前 ▶ 支援後

村人たちが自分たちの村の課題を話し合い、解決策を共に考え、自発的に実践していくための自治会の組織化を支援し、2014年には参加者が29名でしたが、現在(2016年)、その数は約3.8倍(約107人)に増え、村の清掃活動、家畜銀行、家庭菜園などの活動に取り組んでいます。(カンボジア)

自立支援の価値 ～ウガンダ事業・10年目の評価～



言葉に、東日本の復興支援を開始しようと決断しました。岩手県大槌町の避難所から始まった「大槌復興刺し子プロジェクト」。避難所という限られたスペースで、針と糸でできる「刺し子」の制作は、女性たちの「何かをしたい」という想いが生み出されました。震災によって大切なものを失い、奪われ、ほころんでしまった大槌町を、もう一度つくり、補強し、誇れる町へ。この事業は、被災された方の生活再建だけでなく、安心して集まり、交流できる場を生み出しています。「二人ひとりに未来をつくる力がある」こうした想いのもと、海外の事業地では、現地職員や地元住民によって事業を運営・展開できるような体制を目指してきました。大槌復興刺し子プロジェクトにおいても、今後、現地職員と地元住民の方々による運営を目指しています。

啓発・政策提言
〜平和の種をまく〜

現地での支援活動と同時に、国内でも講演活動や政策提言、スタディツアーなど、課題解決のための啓発に取り組んできました。参加者の方に、現場を自分の目で見て感じてもらおうカンボジア・スタディツアーは、2001年から現在まで、計20回にわたり継続して実施しています。また学生・社会

人のインターン生を受け入れ、これまでに100名以上のインターン生が卒業しています。卒業後も平和をつくる仲間として、それぞれのフィールドで「自分にできること」を実践し、活躍中です。「モノがめぐる、想いがめぐる、めぐるプロジェクト」は、古着や古本などを集めて送ることで、アジアやアフリカの支援になるという、国際協力のかたちです。「自分にできること」で国際協力ができるように、支援の窓口を広げていきます。また、紛争で使われる小型武器や地雷・不発弾の問題に取り組むため、2003年には、イギリスのIANS A(国際小型武器行動ネットワーク)を訪問し、日本のNGOとして参加を表明。翌年には、JANS A(日本小型武器行動ネットワーク)設立に参加し、鬼丸が運営委員に就任しました。また市民団体として、クラスター爆弾禁止条約の成立に寄与するとともに、武器貿易条約の国際会議へ参加し、より実効的な実施プロセスを求める政策を提言しています。

「すべての生命が安心して生活できる社会(世界平和)の実現」。現場での支援とともに、私たち自身の行動変革をもたすため、啓発・政策提言による根本的な解決を目指し、これからも活動し続けます。



アジアとアフリカ 支援の本質に迫った それぞれの15年

お金のために 地雷原で働く人たち

小川 テラ・ルネッサンスにとって、初めての海外事業はカンボジアから始まったわけですが、この15年を振り返って、現地ではどんな変化がありましたか？

江角 元々、地雷除去の支援から始めたのですが、それだけでは現地のニーズを満たせないということがわかり、地雷被害者を減らすための取り組みを始めるようになりました。つまり、地雷があることを知っていても、地雷原に入って、そこで被害にあってしまう人がいたのです。ですので、まずは、地雷被害者ゼロを目指す方針を政府も出していて、私たちも住民たちが被害にあわないために、地雷埋設地域での村落開発に力を入れてきました。

小川 そもそも、なぜ、住民たちは危険を侵してまで地雷原に入っていたのでしょうか？ 私は以前、日々の食べ物さえままならず、地雷原に入っても畑を耕して食料を生産しなければならぬ状況があると聞きました。

江角 そういう側面もあります。しかし、実際には、自給食料を生産するためではなくて、換金作物を栽培するために、貧しい人たちは、命を落とすリスクを負いながら、地雷原に入って耕作していました。

地雷のリスクから、 グローバル経済のリスクへ

小川 なるほど。現金収入が必要だったという点ですか。今は地雷除去も進んで、安全な土地も増えたので、貧困層の生活は、昔に比べて良くなっているのですか？

江角 たしかに、この15年で新たな土地が開墾されましたが、貧しい人たちの生活が良くなったとは言えません。むしろ、広大な土地を持つ裕福層と、そうでない貧困層との経済格差が広がり、底辺の人々の生活は、さらに厳しい状況になっています。

小川 どうしてですか？

江角 例えば、カンボジアでは、エタノールの原料となるカッサバ(芋)を換金作物として栽培して、中国企業などが買い取っているのですが、多くの貧困層は農機レンタルや、種子購入などのために借金をしています。それでうまく収入が得られればいいのですが、実際には収支バランスが合わず、思うような収入を得ることができません。それで、借金が返せず、担保にしている土地を取り上げられることも、しばしば起こっています。

小川 それで、結局、裕福層の畑を耕すか、タイに出稼ぎに行きながら、最低限の暮らしに戻らざるを得ない？

江角 そうです。ある意味、地雷の脅威

(リスク)からは逃れることができたかもしれないけれど、経済のグローバルズムという新たなリスクに直面しているということだと思います。これがこの15年の大きな変化の一つだと思います。

対象地域の人々の 自立と自治を促進する。

小川 なるほど。地雷は紛争により発生した問題ですが、今、直面している問題は、むしろ紛争後の復興・開発の文脈で発生している問題ですから、私たち援助する側が真剣に考えないといけないことですね。

江角 江角さん自身、約10年、現地で主に地雷被害者への援助活動を行なってきて、その現場から学んだことはありますか？

江角 対象地域の人々の自立と自治を促進していくことが最も大切だという学びです。(*注釈参照)。地雷被害者や貧困層に対して対処療法的な支援ではなくて、自立するまできめ細かく支援すること、そして、コミュニティの人々が自分の頭で考えて、自ら抱える課題に取り組めるような環境を作っていくということが、いかに重要だったかということですね。

小川 なるほど。国づくりも、まずは、地域やコミュニティの人々の自立や自治が重要になってくるということですね。

主体性を維持しながら、 周囲の国々との関係性を 築いていくこと

江角 そうです。それが草の根で活動する私たちの役割だと思っています。小川さんは、アフリカでの15年を振り返ってどんな変化を感じますか？ 昨今、よく「成長するアフリカ」などという言葉が聞きますが、実際、どうなんですか？

小川 たしかに2000年代以降、アフリカの産油国は著しい経済成長を遂げましたが、一方、国の経済は成長しても、国内の貧しい人々の生活水準は上がっていないという事実もあります。ある意味、カンボジアと同じように、グローバル経済との繋がりが大きくなるにつれ、その負の側面がアフリカでも浮き彫りになっていることは実感します。

江角 特に、アフリカは植民地支配の影響も重なり、独立後、半世紀以上、資源と原料の輸出に依存する経済構造から脱却することができずにいますよね。根が深いように思います。

小川 アフリカの場合、極端に欧米諸国の援助に依存してきたので、国の自治(自分たちの国のことを自分たちで決めること)すら難しい状況がありました。結果、今の

小川 真吾

おがわ しんご ● 大学卒業後、青年海外協力隊員としてハンガリーに派遣、旧ユーゴ諸国とのスポーツを通じた平和親善活動などに取り組む。帰国後、カナダ留学などを経て2005年より、テラ・ルネッサンス、ウガンダ駐在代表。ウガンダ及びコンゴ民主共和国における元子ども兵の社会復帰支援事業などに従事し、2011年より、テラ・ルネッサンスの理事長に就任。



江角 泰

えずみ たい ● 大学在学中、テラ・ルネッサンスのカンボジア・スタディツアーに参加。京都で大学院に通いながら、2年間テラ・ルネッサンスでインターンを経験。2006年に職員となり、2008年よりカンボジアに駐在。カンボジア及びラオス事業の運営に携わる。カンボジア駐在代表。





写真：上 ●カンボジアの自給食料のための家庭菜園の様子。地雷撤去後の土地において、安心して作物を栽培することができるようになりました。
写真：左 ●ウガンダの元子ども兵社会復帰支援センターにおいて、洋裁の訓練に取り組む女性たち。紛争に巻き込まれた過去を、少しずつ乗り越えていく力強い姿に、一人ひとりに内在する『未来をつくる力』を感じます。

ような経済構造が続いているという側面もあります。昨今は、中国のアフリカ進出に伴って、アフリカの政治家たちも、うまくバランスをとりながら外交努力を進めているようにも見えます。ただ、いざれにしても、国としての主体的な意思決定が阻害されない程度に、大国や周辺国との関係性を築いていくことが重要なんだと思います。

アフリカの人々の適応能力の高さ

小川 一つは、「様々なリスクに対する、しなやかな適応能力の高さ、素晴らしさ」です。アフリカの人々は、紛争や、貧困、犯罪、失業、政治不安、クーデター、感染症、難民の流入、自然災害など、数え切れないほど様々なリスクに囲まれて生活しています。

しかし、それらのリスクに晒されながらも、どうにかして日々を生き抜いているアフリカ人のダイナミックで、柔軟性に富んだ適応能力の高さには、何度も驚かされましたから。

江角 特に、社会復帰を果たしていった元

レジリエンスは、システムの特性を含んだ概念

小川 レジリエンスとは、まさに、そのようなシステムの特性を含んだ概念ですからね。有機的なつながりを考慮しながら、ホリスティックな視点を持つことがレジリエンスを高める上で大事な視点だと思います。

江角 今のグローバル社会で、リスクゼロはあり得ませんから、私たち日本人もこれからは、回避すべきリスクと、向き合うべきリスクを見定めながら、レジリエンスを向上していくことが必要なのではないでしょうか。アフリカの現場からの大きな学びですね。

小川 そうですね。同時に、レジリエンスの概念は、日本的な価値観と親和性を持っていますから、私たちが日本のNGOとして果たせる役割は大きいと思っています。

江角 カンボジアにおいても、レジリエンスの概念はとても大切だと思います。グローバル化のリスクに晒されながらも、対象地域に内在する様々な資源を活かしながら、一人ひとりのレジリエンスを向上していきたいと思っています。

小川 これまで15年間、私たちが現場で学んだことを活かしながら、これからは、対象地域の人々の自立と自治を目指して現場活動を続けていきたいと思います。

江角 今後、日本的な国際協力のあり方や

子ども兵たちの変化には、私も驚きました。

小川 10年前に受け入れた元子ども兵の中には、今は家族だけでなく、コミュニティの貧困層を支援したり、コミュニティのリーダーを務めたりしている者もいるくらいですからね。子ども時代に10年もの期間、兵士として駆り出されていたことを考えると、彼ら彼女らの社会に適応していくチカラは相当なものです。

江角 もし、日本だったら、アフリカ人が抱えるリスクの一つでもあれば、パニックになって社会が混乱してしまいうすです。小川 アフリカの人たちは無数の複合的なリスクに直面していますが、それに対して、「あれがダメなら、とりあえず、こうしてみよう」というふうには、一つの対応策が有効でなければ、瞬時に別のやり方をトライするということを繰り返している。日本人から見れば適当に対応しているように見えるかもしれませんが、実はその方が結果的に合理的だったりすることもあるわけです。

江角 なるほど。ある場所（人）がダメになっても、それを他の場所（人）がカバーして、全体として危機やリスクに適応するシステムのようなものが有機的に機能しているのかもしれないね。

援助手法が、世界にとっても重要だと私は考えています。

小川 同感です。ぜひ、テラ・ルネッサンスとしてもその一翼を担えるように、できることを続けていきたいと思います！

注釈 私たちの考える自立と自治

自立(じりつ) ● 自立という言葉は辞書で引くと、「他への従属から離れて独り立ちすること」とありますが、私たちの考えている自立とは、周りから自分を切り離して、独りで立つ(独立)とは同義だとは思っていません。むしろ、周囲との関係性の中で、自らの力で自分らしく生きることだと捉えています。例えば、植物が周囲の環境との関係性(バランス)の中で、それぞれが多様に成長して生きているような状態です。

自治(じち) ● 私たちの考える自治とは、「自分の将来や、地域の課題、国の未来について主体的に取り組む『責任と権限』を持つこと」です。自らが変革の主体者として、社会の課題に関心を持つことが、自治への第一歩だと思っています。国全体にとって本当に望ましい決定(社会的選択)をするためには、選挙をして代表者に任せただけでは不十分であり、市民が主体的に関わっていくことが重要だと考えています。

ウガンダの受益卒業生インタビュー、洋裁の仕事をする元子ども兵より



オコト・チャールズ（仮名）

もと子ども兵社会復帰プロジェクト 6 期生。1994 年 8 月 20 日に誘拐され、2011 年 2 月 28 日に軍から脱する。平均月収は 120,000 シリング。6 人の兄弟、妻、子ども、計 8 人と生活している。

17 年間の拘束中は、弾丸により右膝と下ももを負傷し、重度の手術を受けました。後に軍から逃げることを決め、テラ・ルネッサンスにて職業訓練を受けました。現在は自分の村で洋裁の仕事をしていて、おかげで私の人生は劇的に変化しました。多くの友達やお客さん、地域の人々がいること、仕事があることを嬉しく思います。最近、アジュマニ県にある南スーダンの人々の難民キャンプで、援助機関から支援された新しいミシンの組み立ての仕事で経験を積み、自分の仕事に誇りを持っています。普段は一日で 5,000 ~ 30,000 シリングを稼ぎ、自分でも村の貯蓄グループにも貯金しています。2 頭の牛、6 頭のヤギ、家の屋根用に 14 枚の鉄板も購入しました。将来は、家の工事完了後、家庭用品を売る村の役に立つお店を開きたいです。訓練をサポートしてくれた日本の皆様に感謝いたします。

コンゴの受益卒業生インタビュー、コンゴ東部の紛争被害者より

妊娠当時は、差別されて人生は本当にひどく辛いものでしたが、ここカロンゲの地で、私たち女性が職業訓練を受けられると聞いた時は、とても嬉しかったです。今では洋服作りでお金を稼げるようになり、私の人生は変わりました。子どもを育てられるようになったし、教わった技術は私にとって本当に意味のあるものになりました。今の夢は、この覚えた技術で（仕事をして）、人生において明日を生き、子どもに教育を受けさせることです。支援してもらったミシンを使って、明日にも自分の家を買えると思うくらい前を向いています。テラ・ルネッサンスのサポートは、生きていく上でとても大きな助けになりました。私を差別した人もいましたが、その経験さえも、私を前に進めてくれています。皆さんからのご支援に、心から感謝しています。



ナンシー（仮名）

紛争下で、性的暴力を受け、夫家族からの差別や偏見を受けて家を追われた後、自立を目指してテラ・ルネッサンスで洋裁技術を身につけた受益者。来年 1 月に仲間とともに洋裁店を開く計画を立てている。

カンボジアの受益卒業生インタビュー、除隊兵士の地雷被害者より

1992 年に地雷の事故に遭ったときは、私の両脚は足首から先だけを怪我していましたが、当時の近くの病院ではきちんとした治療をできる医者がおらず、結局、膝上から両脚の切断をしなければならなくなってしまいました。2005 年にテラ・ルネッサンスからの支援を受けるまでは、本当に大変な状況でした。何もできる仕事になかったので、未来に対して希望を持っていませんでした。2005 年に豚の飼育支援を受けることができ、未来に希望を持つことができました。少しずつ家族で協力して収入を稼いで、今は新しく土地を買って、家を建てることもでき、すごく嬉しいです。近くにたくさん草が生えているので、これからは牛の飼育を考えています。まだ支援を受けられていない地雷被害者の人たちも希望を決して失わないで、生きて欲しいです。



シン・ロウン

カンボジア内戦中、激戦地の一つであったバットンバン州バヴェル郡で政府軍の兵士として従軍中、1992 年に地雷を踏み、両脚を膝の上から切断。2005 年にテラ・ルネッサンスの除隊兵士社会復帰プロジェクトの受益者として、6 ヶ月間の小規模ビジネス支援による豚の飼育を始め、奥さんと協力して収入を得ることができるようになる。

カンボジアの受益卒業生インタビュー、最貧困層の紛争被害者より

支援を受けるまで、私は農民で、畑の日雇いで日当を稼いでいましたが、重労働で、収入もわずかでした。支援を受けてから、裁縫の技術を学んで、以前よりも収入を稼げるようになり、また炎天下の畑のような暑い中で働くなくてもよくなりました。それまでは、畑仕事しかできませんでした。今は技術があるので自分で服を作り、自分で着たり、お金も稼げます。今は家族もできて、子どももいるので、こうして家で仕事ができるのは、とても嬉しいです。成功した秘訣は、「自分が学んだことを生かしていくんだ」という強い意志だと思います。将来的にはこのお店で服を作りながら、その他の商品も販売しようと思っています。また、他の村人たちにも裁縫技術を教えたいです。そして、世界中の人たちが、お互いに愛し合い、助け合う世界にしたいと思っています。



チャン・トオーン

バットンバン州カムリエン郡のロカブツ村で生活する 23 歳。2011 年～2012 年にかけて洋裁の技術訓練、2013 年～2014 年にクメール伝統衣装の技術訓練をテラ・ルネッサンスから受け、その訓練終了後、家の前で洋裁店を開く。開店当初からほぼ休みなしで注文が入り、洋裁店の仕事だけで 1 日平均 5 ドル以上の収入を稼ぐ。

自立を果たした
受益者からのメッセージ



— 政策提言コラム —

第2回 武器貿易条約 (ATT) 締約国会議レポート

戦車や自動小銃などの通常兵器については、テラ・ルネッサンスも参加している「コントロール・アームズ」キャンペーンが武器貿易条約 (ATT) を提案し、2000 年代後半から国連で条約交渉が行われました。2013 年に国連総会で採択され 2014 年に発効した ATT には、締約国は、自国からの武器が輸出先で国際人道法の重大な違反などに使われる危険性が著しい場合には、その武器の輸出を許可してはならないことが盛り込まれました。

しかし、この条約は、発効直後から大きな問題に直面しています。例えば、サウジアラビアは 2015 年 3 月にイエメン内戦に介入して空爆を行っていましたが、同じ年に ATT 締約国 19 か国と署名国 3 か国がサウジアラビアに武器を輸出しました。サウジアラビアによる空爆開始から 2016 年 8 月までに、イエメンでは市街地や病院・学校が攻撃され、少なくとも 300 万人が家を追われ、10,000 人以上が死傷したといわれています。

2016 年 8 月にジュネーブで開催された ATT 第 2 回締約国会議では、「コントロール・アームズ」が、2015 年にサウジアラビアに武器を輸出した ATT 締約国のリストを会議場で読み上げ、ATT 違反だと非難しました。

条約は、合意するだけでは単なる紙に過ぎません。ATT に合意した国々に条約を守らせるためにも、NGO が各国の武器貿易を監視し、条約違反について厳しく指摘する必要があります。テラ・ルネッサンスを含む「コントロール・アームズ」のメンバーにとって、これからの活動の正念場です。

榎本 珠良

えのもと 珠良 ● 国際 NGO で 12 年間人道・軍備管理の政策担当として勤務した後、2015 年 8 月よりテラ・ルネッサンスのポリシー・アドバイザーとして活動。明治大学研究・知財戦略機構共同研究員 (国際武器移転史研究所)、国際小型武器行動ネットワーク (IANSA) 個人メンバーなども兼務。リーズ大学修士 (開発学)、リーズ大学修士 (紛争・開発・安全保障研究)、東京大学博士 (国際貢献)。



(1) ATT 第 2 回締約国会議初日、南スーダンのジョフェリー・デュークは、銃暴力のサバイバーとして、会議場の壇上で武器貿易の規制を訴えた。(2) ATT 第 2 回締約国会議の会場で仕事をする「コントロール・アームズ」関係者。(3) ATT 第 2 回締約国会議初日、「コントロール・アームズ」によるスタント活動。

カンボジア王国・地雷撤去団体 (MAG) スタッフより

テラ・ルネッサンスからのご支援は、紛争残存物によって影響を受けているカンボジアの人たちの未来を良くしていく MAG の活動へ貢献しています。私たちは、カンボジアの人々が死や重度の怪我を負うことに対する物理的な脅威を取り除き、これらの残酷な爆弾の脅威がなくなり、コミュニティで安全に生活できるようにしています。私たちは、カンボジアの人々に、貧困や紛争によってもたらされた困難から逃れられる機会を提供するため、地雷や不発弾を除去し、地雷回避教育を実施しています。テラ・ルネッサンスのカンボジアでの資金提供は、これまで 300,000 m² 以上の地雷原を撤去することに貢献し、60 家族以上が受益しています。MAG は、皆様からのご支援がなければ、これらの活動を実施することはできません。テラ・ルネッサンスからの、MAG がカンボジアの人々の命を救う活動へのご支援に、心より感謝を申し上げます。



ニック・ゲスト (MAG テクニカル・オペレーション・マネージャー)

14 年間英国軍の第 1 等上級下士官の爆弾処理員として従事した後、2000 年 3 月に MAG での活動を開始。コソヴォ、ラオス、ベトナム、レバノン、北イラク、南イラク、南スーダン、カンボジアを含む様々な国で、16 年以上にわたる地雷対策セクターでの経験がある。撤去活動が MAG のポリシーに一致し、効果的かつ効率的で、活動資金に見合った価値を提供できているかどうかを確認し、活動基準規定に沿ったカンボジアでの地雷撤去の技術的な活動を、全面的に主導、監督、運営している。

ウガンダ共和国・グル県広報官より

グル市民を代表し、日本の皆さまに挨拶とお礼申し上げます。今日、私たちは日本の皆さまや世界とともに、テラ・ルネッサンスの 15 周年を祝います。

テラ・ルネッサンスや日本の歴史背景から、この祝福は最もふさわしいと信じます。日本とウガンダ北部は過去の戦争で悲劇を受けた点で共通しています。長崎や広島は街が破壊されたように、ここでも 20 年の戦闘が続きました。私たちは、テラ・ルネッサンスの長年にわたる奮闘、貢献や成果を評します。ウィンストン・チャーチルが「過去を遠くまで振り返ることができれば、未来もそれだけ遠くまで見渡せるだろう」と言ったように、彼らの経験から未来の進展がうかがえます。彼らの若者への職業訓練や心理的サポートは、子どもたちによる完全に平和な未来の実現に繋がるでしょう。20 年の長きにわたったウガンダ北部での戦闘は、膨大な数の職を得る術がない若者をうみだし、地域の発展を妨げました。人々が平和について話さなくなれば、戦争が起こってしまいます。持続可能な平和を築けるよう、我々はテラ・ルネッサンスのような主要パートナーとの対話をより進めていくことを決心し、団体の 15 周年を祝します。皆さま、ありがとうございます。



オクオガ・ジョン (グル県広報官、教育者)

1978 年生まれ。教育を専門分野としている。2011 年からグル県のウニヤム副郡で地方議員を務め、その後、グル県の教育保健部部長、グル県労働技術サービス部長を歴任し、2016 年にグル県広報官に選出される。



レジリエンス

彼らはかつてその瞳に光を失っていた

「できたよ」

そういつて見せてくれたのは、

色鮮やかな服や、

色とりどりの野菜

自信に満ちた、とびきりの笑顔

レジリエンスの本当の意味を教えてくれた

レジリエンスとは ... 困難な状況に直面した時、自らに内在する多様なチカラと周囲との関係性の中で、それを乗り越えていく適応能力を言い、私たちが大切にする支援のあり方です。

社会の視点と テラ・ルネッサンス

テラ・ルネッサンスの活動は、多くの方々のお力添えのうえに成り立っています。団体設立15周年にあたり、各界の著名人の方々に応援メッセージを寄せていただきました。

テラ・ルネッサンス設立15周年、誠におめでとうございます。関係者のご活躍と支援者、皆様のご協力に深く敬意を表します。世界の人々の「自立と自治」の実現に向け、活動が更に発展していくことを心より期待しております。「善まことはカタツムリの速度で進む」(ガンジー)



阿部 守一
長野県知事

01

大志晩成 おきばりやす!



西水 美恵子
元世界銀行副総裁

02

歩み続ける力

2001年、おとし亡くなった山田和尚と共にカンボジアの地雷原を訪ねたとき、テラ・ルネッサンスの創始者である鬼丸昌也さんがメンバーの中にいた。

まだ学生だった鬼丸さんが、現地スタッフから熱心に地雷原の実情を聞いていた様子を覚えていて。でも、まさかこの青年が本気でカンボジアの地雷撤去に携わるとは、申し訳ないが思っていなかった。その後、鬼丸さんと会う機会はあまりなく、国際協力事業に携わっていることを風の噂に聞いていた。再び、鬼丸さんと私の人生が交差するのは、2011年の東北大地震の時だ。災害が起きたとき、頼りになるのは現場を知っている人間。真っ先に鬼丸さんの顔が浮かんだ。すでに被災地に向かっていたテラ・ルネッサンスと連携して義援金を現地に送ることができた。カンボジアを旅してから十年、風貌は変わらないし以前にも増して謙虚な鬼丸さんが、テラ・ルネッサンスでどんな活動を行ってきたか、久しぶりに会って全貌を知り、彼の不屈の意思と、国際貢献への具体的な行動に感銘を受けた。あの時の痩せっぽちの青年が、すごいことをやってのけている。

若い世代への期待と共に、自分もしっかりしなければと思う。ゆっくりは怖くない。怖いのは止めてしまいうこと。私の太極拳の師がよく口にしてる言葉。テラ・ルネッサンスの歩みが、これからも長く、世代から世代へと受け継がれていくことを祈る。15年よくがんばったね！ありがとう。

03

作家
田口ランディ



京セラの稲盛さんがよく言われる言葉に「利他」という言葉があります。天台宗祖の最澄の言葉ですが、すべての宗教の教えの基本だとも言われています。他人の利する…つまり他人のためになることが大切だという教えです。鬼丸さんは、まさに、この教えの実践者です。我利は、誰でもが本末ですが、利他は、なかなか本末のそのではありません。利他は、たった一人の人生をいかに生きるためにどうすべきか？ どう人生はありべきかを考えた人に与えられる勲章みたいなものだと思います。ますますのぶれない活躍を期待しています。塚越 寛



塚越 寛
伊那食品工業株式会社
取締役会長

04

設立15周年、おめでとうございます。
遠いアジアやアフリカの地で、地雷の撤去や元少年兵の社会復帰支援など、困難極まる活動で成果を上げるために、15年は決して十分な長さではありません。にもかかわらず、貴団体は、内外で高い評価を受けるまでに成長されました。
貴団体の15年間は、こうした事業上の成果を生み出しただけではありません。事業資金の調達にあたり、コーズ・マーケティングなど、政府系の資金だけに依存しない方式を追及されています。また、私ども関西NGO協議会の理事団体として、関西におけるNGO活動の発展に寄与されています。こうした実績に満足することなく、今後も、途上国の課題に立ち向かうとともに、NPOの運営のモデルを作りあげ、かつNGO全体の発展に貢献されていくことを期待しています。



07
柏木 宏
NPO法人関西NGO協議会
代表理事

アフリカのルワンダの南に、ルワンダと同様にフツとツチの民族対立に苦しんだ国、ブルンジがある。私は国連難民高等弁務官事務所の保護官としてこのブルンジに1年半駐在したことがあるが、1994年の虐殺を受けて国際社会の注目が集まり、復興を遂げたルワンダとは異なり、ブルンジについて知る日本人は少ない。テラ・ルネッサンスは、見過ごされがちなこのブルンジで活動する数少ない日本のNGOだ。コミュニティーに根をおろして、元少年兵の社会統合や紛争被害者や最貧困コミュニティへの支援活動を行っている。2015年9月の国連総会で全会一致で採択された、2030年までに世界を変えるための17の目標からなる「持続可能な開発目標」も、こうしたローカル・アクションの積み重ねがあって初めて実現することができる。テラ・ルネッサンスには「Think Globally, Act Locally」をこれからも実践し続けていただきたい。



08
根本 かおる
国連広報センター
所長

テラ・ルネッサンス設立15周年、おめでとうございます！
ACEにとって、テラ・ルネッサンスは、児童労働の問題に取り組む仲間であり、従兄のお兄さんのような存在です。(注:実際の血縁関係はありません)。
そしていつも、ちょっとあこがれています。あんな風に、ダイナミックに、楽しそうに、多くの人に応援される団体になれたらいいな、と。これからも憧れの存在として、NGO界を引っ張って行ってください！応援しています！



05
岩附 由香
認定NPO法人ACE
代表

15周年おめでとうございます！
昨今、政府を始め社会的に「グローバル人材を育成しよう」という動きがあります。しかし、真のグローバル人材とは、鬼丸くんのことを言うのではないかな、と。
世界のどこかで、子ども達が犠牲になっていて、その見たこともない子ども達の犠牲に涙し、同情だけではなく、彼らのために汗にまみれて行動し、成果を出す。発信し、社会からの共感とリソースを集め、現地の人々をエンパワーする。こうした行動こそが真に国際的なのであり、それはバイリンガルであるとか、経営学修士を持つているということを超えた、普遍的な価値を持っていると思います。
鬼丸くんとテラ・ルネッサンスのような日本を代表するNGOがこれからも活躍し続け、そして日本の国際貢献のあるべき形を僕たちに示し続けてくれることを、心より応援しています。



06
駒崎 弘樹
認定NPO法人 フローレンス
代表理事

非営利セクターの視点と テラ・ルネッサンス

テラ・ルネッサンスの活動は、多くの方々のお力添えのうえに成り立っています。団体設立15周年にあたり、非営利セクターの方々に応援メッセージを寄せていただきました。

協働の視点とテラ・ルネッサンス

フクサポ



黒川 芳秋
株式会社Kurokawa
代表取締役社長

10

【企業概要】創業:1953年、本社:兵庫県高砂市米田町米田1097。創業当時から続く故繊維加工業という衣類のリユース・リサイクル事業を基軸に、現在ではリユース小売事業をスタートしFC店を含めて全国に103店舗展開。集めた衣類を大切な資源と捉え国内販売すると共に東南アジアへ輸出を行うことでモノやヒトを活かすことのできる循環型社会の構築を目指す。



—— 協働を決めた理由について
皆さんの活動の理念が、我々の理念の根っこにあるヒトやモノが活かされていない環境や社会を改善したいという想いと同じであると感じたからです。同時に、その理念の実現を目的の効率を優先せず、自ら当事者として現地に根付き、自分たちの力で実施しているところが、また、その理念の実現や課題解決に、我々の持っているノウハウを活かすことができると感じました。

—— 今後の展望について
さらにこのフクサポの事業を拡大させていくことでお役立ちできる量を増やしていきたいと考えています。またフクサポ事業を基軸に、新たな協働事業を生み出すことでヒトとモノを活かす取り組みの深化を通して、ともに「すべての生命が安心して生活できる社会」を実現させていきたいと思えます。

協働の視点とテラ・ルネッサンス

ウガンダコーヒー



木下 正義
株式会社クリスタル
代表取締役社長

09

【企業概要】弊社は創業30年になるコーヒー焙煎業者です。中部地区を中心に活動しており、主に喫茶店やレストラン、一般のご家庭へ世界のコーヒー豆をお届けしております。今から20年前「これは本物だ!」と感じるコーヒー豆と出会いました。それが、ウガンダ産のコーヒーです。豊かな大自然の恵みとそこで暮らす人々の温かな手によって大切に育てられたウガンダコーヒーを通して、日本の食文化とそこで暮らす人々に明るい未来をお届けします。

—— ウガンダの大自然のなかで、自然栽培によって育まれたコーヒーを取り扱う株式会社クリスタルさま。同じウガンダで活動するNGOであるテラ・ルネッサンスに共感し、その大切なコーヒーを、特別に卸してくださいという。美味しいコーヒーを飲むことで、社会貢献につながる仕組みを、共につくることになったきっかけなどを、同社代表取締役・木下正義さまにお聞きしました。

—— テラ・ルネッサンスとの出会い
今から14年前(2002年)に、鬼丸さんが、愛知県名古屋市にある当社の喫茶店へ来られたのが出会いの始まりです。

—— 協働を決めた理由について
鬼丸さんの「すべての生命が安心して生活できる社会の実現」という壮大な目標に向かって、真剣に取り組む姿に心を打たれたことです。また、ウガンダ産のコーヒー豆を取り扱う一企業として、テラ・ルネッサンスが支援するウガンダの元子ども兵の活動に協力したいと考えたからです。

—— ご自身や社内での変化について
個人としては、命の尊さや、他者のために最善を尽くすことの大切さなど多くの気づきがありました。会社としては、一般的なコーヒー会社と同じように、コーヒー豆の品質や風味、栽培方法などだけを重視して消費者様へ商品をお届けしていましたが、

フェアトレードにも力を注ぐようになりました。今ではスタッフ一同、生産者に、さらなる感謝の気持ちを持って、毎日の業務を行っております。

—— 協働するなかで、嬉しかったこと
ウガンダで暮らす温かな人々の手によって育てられたコーヒー豆が、日本で暮らす人々の温かなお心遣いによって消費され、そして、ウガンダで、貧しさや内戦の影響によって、苦しんでいる人々の支援に繋がります。コーヒー豆を通して、生産者と消費者、そして戦争の犠牲者である元子ども兵の皆様へ明るい未来を届けられること。コーヒー会社としてはこんなに嬉しいことはありません。

—— 今後の展望について
テラ・ルネッサンスが活動する多くの国ではコーヒー豆の栽培が盛んに行われております。ウガンダコーヒーと同様に、その国のコーヒー豆を私たちが購入させていただき販路を築いていくことで、経済的に立場の弱い生産者の生活向上に貢献できると考えています。そして、将来的にはテラ・ルネッサンスの施設で社会復帰を目指されている利用者にもコーヒー豆の栽培に関わって頂き、就業の場としてご活用いただける。コーヒー会社として、そのような展望を思い描いています。



かわいい!たのしい!

めぐるアニマルの
LINEスタンプ

できました、買ってね(^o^)



栗田 佳典

くりた よしのり ● 2007年より1年半のインターンシップを経て、大学卒業後、職員としてテラ・ルネッサンスに勤務し、現在7年目。日本国内での啓発事業を担当する。



徳永 かのこ

とくなが かのこ ● 現役インターン生。テラカフェ担当を経験しながら、主にめぐるプロジェクトに携わる。インターンシップを始めたきっかけは、大学の国際協力サークルでの活動を通して、1年生の夏にテラ・ルネッサンスのカンボジア事業地を訪れたこと、サークルの先輩がインターンシップをしていて自分も活動に関わってみたいと思ったこと。



清水 香那

しみず かな ● インターン生 OG。インターン任期中、主にめぐるプロジェクトを担当。現在はイベント参加や会員として団体を支える。世界の子どもへの課題に関心があり、「こうして僕は世界を変えるために一歩を踏み出した」を読んだことをきっかけに、子ども兵やその課題に取り組む人の姿、思いに感銘を受けたことでインターンシップを開始した。



キフ★ブック 担当

ブックロウ

使用済みケータイ電話 担当

ケータイッコ

書き損じハガキ 担当

ハガキング



アルサポ 担当

アルミ



モノがめぐる、想いがめぐる。

めぐるプロジェクト

啓発活動のひとつである回収系支援事業、『めぐるプロジェクト』。職員とインターン生とともに、本プロジェクトの取り組みについて、『過去と未来』についてご紹介します。

栗田 まず、めぐるプロジェクトについて教えてください。

徳永 お金の寄付と違って、不要になった物を寄付する仕組みで、いつでも誰でも簡単に参加できます。物も思いも世界中で「めぐる」という身近な国際協力をうたったプロジェクトです。

栗田 そうですね。その入り口としてのこの取り組みも、今となっては書き損じはがき、携帯電話(ケータイforゴ)、古本(キフブック)、古着(フクサポ)、古紙(コシサポ)、アルミホイール(アルサポ)の6種類となりました。協力いただいた方との関わりの中で印象に残っていることはありますか？

清水 幼稚園や小学校の子どもたちが、はがきを集めてくださったことです。お金ではなく物を通し、子どもでも参画できるということを実感した時はとても嬉しかったです。

徳永 送ったお札状に対する反応があった時、さらに嬉しくなります。ある方が、お札状が嬉しい、また集まったら協力したいという想いをブログに載せてくださり、たった一枚のお札状で感謝してもらえ、ことに感動し、一枚一枚をより心を込めて書くようになりました。

栗田 思いを相互に交換しながら、縁がなくなっているんですね。私たちの啓発は、

様々な方々の思いや物をお届けしたり、現場からの報告をしたりと架け橋の役割があると実感しています。

めぐるプロジェクトの役割とは



徳永 日本と世界をつなぐ架け橋の役割があると思います。自分の手元にお金が戻る選択でなく、それらを「活動にお役立てください」と託して下さることがとてもありがたいです。日本で多くの方と共に活動していることを一番実感できる取り組みでもあります。

清水 物で気軽に寄付できることは身近な国際協力の大切な窓口です。友達からも「寄付は難しいけど、服の支援やったら」と言ってもらい、そうして輪が広がればいづか実際のお金の寄付などにもつながるのではないかと思います。何かを誰かのために使い、誰かに託す行為が広がっていく、そのきっかけになれるかなと。

栗田 確かにそうですね。あと、エコの観点もあります。これらの取り組みは物や資源を循環させる仕組みに乗っかっていると思います。物や資源を世界中に巡らせているという実感を持ってもらえるような活動になればと思います。

めぐるアニマルの誕生秘話

野さんの協力のもと、2016年の5月にはプロジェクトをまとめたチラシの制作やLINEスタンプへと発展しました。今後もアニマルを通して、プロジェクトの認知を高め、協力いただきたいですね。

めぐるプロジェクトに期待すること



徳永 テラ・ルネッサンスの活動資金を集める根幹にさせたいです。めぐるは、団体の理念「ひとり一人に未来をつくる力がある」を体現するものだと思います。年齢も居住地も量も問わず、できることを考えて動くための大切な入り口としてあり続けたいです。無理なく、自分のできることから始めていくのはいかがでしょうか。

清水 それだけでイベントができる程、大きくならさらさら嬉しそうですね。服や古紙など持参するイベントに人が集まる、そんな一日を作りたいとも思います。

栗田 ワクワクしますね。さらに続けることでベルマークぐらいに認知が広がり、取り組みが定例になればいいですね。LINEスタンプも販売開始したことで、これからもともに、めぐるの輪を広げていきましょう。

栗田 私が講演に行った時も親しみやすいと評価いただいています。そんなアニマルたちをさらに広げるため、インターンの番



光を見失ったとき、
そっと目をとじてつぶやいてみる

「微力ではあるが、無力ではない」



photo by t.koshiba



吉田 真衣

よしだ まい ● 大学院修了までに国際関係を修め、2005年より、テラ・ルネッサンスのインターンシップを経験、主に国内でウガンダ事業の調整業務に携わる。民間企業で2年間の就業経験を経て、2010年より、職員として勤務。2014年に理事に就任し、2015年より、大槌復興刺し子プロジェクトマネージャーを兼任している。

対談者名、写真左上から... 黒澤かおりさん（刺し子スタッフ・パディ）
大澤美恵子さん（刺し子さん）
一兜貴昭さん（刺し子さん）



くすみボタン【全10柄】
（ヘアゴム・ピンパッチ）

大澤 縫ってるときは、余計なこと考えられないんだもの。何も考えなくていいから、いいもんだなと思った。
黒澤 それに、自分がものづくりに携わるようになって、手づくりの物とかに目が向くようになりました。
大澤 わたしは娘から、ダラダラしなくなったねって言われるの。昔は娘の服も作ってたけど、大きくなれば既製品の方がいいって言われるから、ずっと針持つことをしてなかった。でも、刺し子を始めてみると楽しくて、またハマったの。
貴昭 わたしは趣味でいろいろ作ってたから、さらに忙しくなりました（笑）。
大澤 あとは、そうだな。最初は不安だった。本当に自分が作ったものが売れるのかな、とか。今は、自信もついた。
貴昭 もう活動が終ってしまったところもあるけど、大槌刺し子は続いているから、すごいよね。
黒澤 取材も受けて、新聞やテレビにも取り上げてもらったりして嬉しいですね。あと、いろんな企業さんからのコラボの依頼も嬉しいですね。
貴昭 これからは、商品も提案したいと思っています。それから、やっぱり感謝。いつも東京とか連れて行ってもらったりして、応援してくれる人がいるから続いていることができると思っています。

大槌からひと針ひと針、想いを込めて。 大槌復興刺し子プロジェクト

2011年3月11日に起こった未曾有の東日本大震災。この震災をきっかけに、テラ・ルネッサンスでは初めてとなる国内での活動を岩手県大槌町で開始しました。東京から支援に駆けつけた5名の有志らが立ち上げた大槌復興刺し子プロジェクト。今回はマネージャーの吉田を聞き手に、刺し子スタッフ（パディ）をはじめ、商品を製作する刺し子さんとともに、6年目を迎えた活動について振り返ります。



上：大槌刺し子 Sorakamo 名刺入れ
下：大槌刺し子 Sorakamo コースター

大槌刺し子との出会い

吉田 みなさんが刺し子を始めたきっかけは何だったのでしょうか。
黒澤 パディの加奈子さんに誘われて始めました。加奈子さんの家に行ったとき、刺し子のふきんを見つけて、これ何？って聞いたことがきっかけでした。加奈子さんは、近所の人から聞いて始めたって。
吉田 ということは、刺し子の活動は当時から結構多くの人に知られていたということですか？
貴昭 当時はいろんなボランティアがあったからね。みんな知ってたんじゃない？
吉田 なるほど、大澤さんと貴昭さんはどうですか。
大澤 活動のことは知ってたの。中央公民館の一室でアイロンかけたりしているのを見てたから。ただ、家から公民館まで行かないといけないというのが億劫で。でも、そのあとに刺し子の事務所が近所にできたことと、たくさんの方が出入りしているのを見て、参加するようになりました。
貴昭 わたしは刺し子しませんか？っていうチラシを見たの。もともと刺し子に興味があったし、姉の峯さんもずっと家に閉じこもってたから。峯さんは家も津波で流されたし、じっとしていると嫌なことばかり考えちゃうでしょ。それで、峯さんを誘って、参加することにしたの。そしたら、いきなり材料を渡されて、ふきんを縫ってくださいって（笑）。
大澤 私が始めたときはね、講習会もあってね。これを受けてから始めてくださいって言われたの。それで、わたしはランチョンマットから始めた。
貴昭 商品売り出して少し経ったころ、いろいろ問題が出てきてね。刺し方がバラバラだとか、針目の数が違うとか。だからみんなで、どうしたらいいか話し合あったの。他の人が作った商品も見ることができるようになってね。すると、私ももっと綺麗に作らなくちゃ！っていう気持ちもみんなが持つようになってきた。

大槌刺し子と関わって、変化したこと

吉田 当時、刺し子会の日は、すごく混んでいたんですね。それから、だんだん参加する人数も落ち着いていって、みんなが少しずつ日常を取り戻していった。みなさんは今でも刺し子を続けていますが、刺し子をしてみてどうでしたか。
黒澤 楽しかった。綺麗にできたら嬉しくて。
貴昭 それに嫌なことがあっても気にしなくて済むし。

大槌刺し子とこれからの未来

吉田 貴昭さんと大澤さんは、良品計画さんの企画でヨーロッパにも行きましたよね。針仕事を通じて、現地の人と一緒に作る喜びを共有できたって、お二人が嬉しそうに話してくれたことが印象的でした。
大槌刺し子とこれからの未来
吉田 これから大槌刺し子を通して、実現したいことはありますか。
黒澤 大槌刺し子の商品が、「大槌刺し子」として、認められたいと思っています。あと、刺し子さんたちが商品企画にも加わるようなものづくりをしていけるといいですね。
大澤 大槌に根付いてほしいと思います。
貴昭 2人に同じですね。
—— この日、貴昭さんは次の商品企画にも生かせるようにと、自分の作品を持ってきてくれました。プロジェクト開始からもうすぐ6年。大槌刺し子を通して、人のつながりができていくのを感じています。これからも刺し子さんたちと一緒に、この歩みを進めたいと思います。

シムシムクッキー ¥540 (税込み)

京都の「野菜提案企業」坂ノ途中がウガンダで栽培しているごまを練り込み、滋賀の福祉施設ががんばカンパニーが製造する優しい味わいのクッキー。サクサクでとっても美味しいクッキーです。

ご購入は... テラ・ルネッサンスの主催イベントで!

ウガンダコーヒー (粉/豆) ¥1,200 (税込み)

ウガンダの自然の恵み(太陽・水・土)だけで栽培された自然栽培コーヒーで、現地の人々を笑顔に。(寄付つき商品)

ご購入は... ネットから!

<https://terra-r.stores.jp/>

テラルネッサンス コーヒー



ツナグ〜刺し子ポーチ〜 (大・中・小/藍色・生成色)

大: ¥4,800 (税込み) 中: ¥4,600 (税込み) 小: ¥3,500 (税込み)

針目が魅せるシンプルな色、形。



かもめパーカー (グレー・ネイビー)

¥5,500 (税込み)

かもめモチーフのカラフル刺繍。

キャンバストートバッグ (ナチュラル・ネイビー) ¥3,200 (税込み)

「ちょっとそこまで」のお出掛けに。



マルチクロス (葉っぱの森・四つ葉のクローバー)

¥1,000 (税込み)

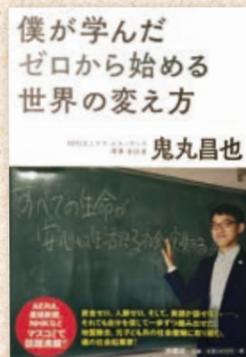
大判ハンカチ、スカーフ、包装布として。

伝統柄バッグ ¥9,000 ~ ¥30,000 (税込み)

Sashi.Co ニッ谷恵子さん監修の下、刺し子さんたちが、ひと針ひと針刺し子を施した、すべて1点もののバッグです。生地には藍染め布、糸には草木染めの糸を使用し、素材にもこだわっています。

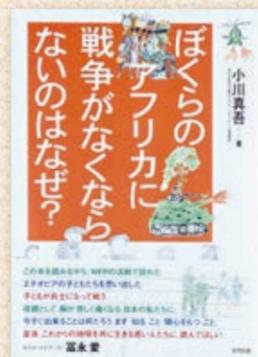
ご購入は... ネットから! <https://sashiko.jp/>

大槌刺し子



**僕が学んだ
ゼロから始める
世界の変え方**
¥1,512 (税込み)

人の心に火をつけ、アクションを起こさせる【伝える技術】を鬼丸昌也が明かす!



**ぼくらのアフリカに戦争が
なくなるといいのはなぜ?**
¥1,404 (税込み)

アフリカの現実とその背景にある複雑な社会構造を小川真吾が解き明かす!



テラ・ルネッサンスI,II (漫画)
¥1,296 (税込み)

鬼丸昌也の活動のきっかけ、仲間たちとの出会い...カンボジアからはじまった活動はアフリカのウガンダへと広がっていく。テラ・ルネッサンスの原点がここに!

ご購入は... ネットから! http://www.terra-r.jp/icando_goods.html

テラルネッサンス 書籍

テラ・ルネッサンス、15周年おめでとうございます。鬼丸さんは、若い時に志を立て、行動なされたんだなあ。きっと、周り中から、誹謗中傷されながら、自分にしか見えない道をたど、ひたむきに歩き始めたのでしよう。

目の前には高い壁、足下は泥沼。それでも、その時いた安全な場所がたまたま居心地悪かったらと推察します。

それは、世の中を変える人間の宿命。それは、神からの大いなるギフト。15年経ち、きっとその頃には考えられないくらいの幸せに包まれる今、ますますテラ・ルネッサンスが発展なさいますことを心から祈念申し上げます。



大浦 敬子

ピュア・サポートグループ 代表
医療法人社団大浦会 理事長

[熊本 / 個人寄付]

12

鬼丸さん、テラ・ルネッサンスの皆様。15周年おめでとうございます！

2011年の秋に、本間正人先生に大槌復興刺し子プロジェクトのお話を伺ったことがきっかけでご縁を頂きました。鬼丸さん、吉野さんの想いに感激し、少しでもお役に立ちたく、当社オリジナルの刺し子の商品を作っていただくことになりました。そして、今年の6月には、無印良品の欧州のパリ、ミラノ、ロンドンのお店で大槌の刺し子さんお二方にワークショップまで、していただきました。定員を大きく上回る申し込み（20倍以上の会場も！）になるほど大変盛況で、欧州での大槌復興刺し子プロジェクトについての理解も深まりました。素晴らしい活動をされている皆さんと、次の15年、いや100年！ともに歩みたいと思います。益々のご発展を祈念いたします！！



鈴木 啓

株式会社良品計画
取締役

[東京 / 大槌復興刺し子プロジェクト]

13

共感の視点と テラ・ルネッサンス



- 人見 康裕 [京都 / 法人寄付]
- 大浦 敬子 [熊本 / 個人寄付]
- 鈴木 啓 [東京 / 大槌刺し子プロジェクト]
- 池田 郁子 [東京 / ファンクラブ会員]
- 横山 英樹 [千葉 / 法人サポーター]
- 安里 佳世子 [大阪 / 講演主催・カンボジアスタディツアー]
- 西宮 公平 [秋田 / ファンクラブ会員]

「鬼丸昌也君という子が、なかなかええ事やっているから、一回話聞いたげて」。2002年の春、京都JICの中井理事長（当時）からお電話をいただき、仲間を集めて講演会を企画したことが、彼との、そしてテラ・ルネッサンスとの最初の出逢いでした。内心、実は「折角親が大学まで行かしてくれているのに、勉強もしないで海外支援なんて、チャラチャラした話だったら一発説教でもかましてやらねばなるまい」と思っておりましたが、1時間半後「地雷畑で見た夢」という講演を聞いた私たち全員、涙を流しながら入会届を書いたことも今では懐かしい思い出ですね。あれから15年、今の世界を見渡す時、テラ・ルネッサンスの存在意義は、益々大きくなってきていると感じます。更なるご活躍を心から祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。この度は誠にありがとうございます。



人見 康裕

株式会社ヒトミ
代表取締役

[京都 / 法人寄付]

11

テラ・ルネッサンスの活動は、多くの方々のお力添えのうえに成り立っています。団体設立15周年にあたり、日本各地でご支援いただく方々に応援メッセージを寄せていただきました。

人の心に火を点けるには、まず自分自身が燃えていなければならない。鬼丸さんとテラ・ルネッサンスさんがそう教えてくれた気がします。フィールドは違いますが、私も日々の学校現場で、気持ちだけは同じく、平和な社会の実現を目指して微力を尽くしているつもりですが、こんな恵まれた穏やかな環境にあっても、小さなことでよくよしたり、心が折れそうになったりすることがあります。そんな時に、ふと思い出し自分を励ましてくれるのが、鬼丸さんの言葉やテラ・ルネッサンスさんの存在です。その燃えるような熱い熱い信念が私の心にも決して消えない小さな火を点してくれました。団体設立 15 周年おめでとうございます。これからもたくさんの人の心にその熱が伝わりますように。そしてもっともっと明るい光となりますように。心よりお祈り申し上げます。



安里 佳世子
大阪府立佐野高等学校
教諭

16

[大阪 / 講演主催・カンボジアスタディツアー]

二年前に鬼丸さんの講演を初めて聴き、強烈な衝撃を受けた。彼は、軽量のカラシニコフが量産されたことで少年兵が生まれていると語り、私の記憶が蘇る。手の中で暴れる安物のブリキ細工のようなAKと、三点射で吐き出される小銃弾の威力とのギャップに呆れながら「こんな玩具で人が死ぬのだ。」そんなことを考えていた冬のロシア。

地下資源の争奪が原因で、紛争が起きている。それを頭で理解していても、自分のスマホの部品と結びつけられない私達。自分の預金先の銀行が死の商人に投資しているとは、夢にも思わない私達。彼等の話は、私達のそんな鈍った感覚を覚醒してくれる。この覚醒の機会を少しでも拡大したいと切望し、「テラ・ルネ後援会秋田」を立ち上げる予定。できる範囲のことしかできない自分が歯痒いが、支えてくれる仲間が存在が嬉しい。



西宮 公平
秋田海陸運送株式会社
代表取締役社長

17

[秋田 / ファンクラブ会員]

勤務先での講演会でチラシを見て、ウガンダへのスタディツアーに参加することにしたのが、テラ・ルネッサンスとの出会いです。

グールの元子ども兵社会復帰センターでは、熱心に技能の習得に励む元子ども兵の方たちや、それを支える職員の方たちの姿を見て、テラ・ルネッサンスの活動に深く共感しました。特に、プログラムを受ける人たちの伝統や伝承を大事にしているところに、押しつけではなく寄り添う姿勢を、技能や生活スキルを教えるプログラムに、援助ではなく持続可能な自立を支援する決意を感じました。笑顔を取り戻していく元子ども兵の方たちに遠くからでも関わっていきたいと思い、帰国後ファンクラブ会員になりました。これからの世界各地での活動の発展がとても楽しみであり、ずっとともに歩きたいと思っています。



池田 郁子
会社員

14

[東京 / ファンクラブ会員]

テラ・ルネッサンス活動 15 年、おめでとうございます!! 旅の途中にたまたま伊賀上野市で行われていた倫理法人会のモーニングセミナーに出席した時に講師の鬼丸さんと出会ってから 9 年になります。朝から大雨で自分も行くかどうか迷った末の参加でしたから、この出会いにはとても不思議な縁を感じています。また 6 年前に知人より応援してほしい人がいると紹介されたのが鬼丸さんでした。この再会は偶然ではなく必然だと考え、彼を応援すべくテラ・ルネッサンス千葉の立ち上げに取り組みました。この 15 年で活動範囲も広がり、多くの事業により多くの支援が必要となっています。テラ・ルネッサンス千葉は、これらの活動に今後も少しでも多くの支援を送るべく、微力ではありますが活動を続け、その輪を広げていきます。今後も一人でも多くの人達に笑顔を取り戻してくれることを期待いたします。



横山 英樹
株式会社NPS成田予備校 代表取締役
テラ・ルネッサンス千葉 幹事長

15

[千葉 / 法人サポーター]

共感の視点と テラ・ルネッサンス





足音がきこえる

歩幅の大きさは、ばらばらかもしれない
スタート地点も、ゴール地点も、
少しずつ違っているのかもしれない

けれど、この地の上で繋がっている
大気をふるわせ伝わってくる

同じ想いと、問いを抱えた誰かの足音

一人の百歩より、百人の一步



講演でみつけた わたしの勇気



テラ・ルネッサンスの代表的な活動の一つが「講演」。創設者・鬼丸昌也が、カンボジアの地雷原で、「自分にできることは何だろう。」と考えたことをきっかけに始めた行動が、地雷問題について語ることでした。講演を聞いた人たちが、支援者やスタッフになり、テラ・ルネッサンスが形作られてきたのです。今では年間170回以上もの講演を、職員やインターンが全国各地で実施しています。テラ・ルネッサンスの講演活動の特徴を、ファンクラブ会員でもある、『シンプルだけど重要なリーダーの仕事』著者で、長年リーダーシップ研修に携わってこられた守屋智敬さんと探っていきます。

世界感を伝えることの難しさ

鬼丸 守屋さんが、初めて、僕の講演を聞いたときに、どんな感想をお持ちになられたんでしょうか。

守屋 話しの上手さはもちろんですが、鬼丸さん自身のことを、躊躇なくお話しされることに驚きました。僕も十何年、研修講師として人前で話す仕事をしています。その中で気づいたのは、自分の想いや世界観を相手に伝えていくということは、一番難しいということなんです。

鬼丸 それはつまり、私の世界観が、講演の中で語られていたってことですか。

守屋 語られていたけれど、ひたすらに。もちろん、講演では子ども兵などの課題を伝えておられました。ただ、僕の聞こえた範囲でいくと、それが講演の主なテーマではなかったのです。それよりも鬼丸さん自身がその課題をどう見ているのか、どう考えているか、どう立ち向かおうとしているかということ、言葉にして聴衆に渡していました。それに感動したんです。

鬼丸 ちなみに、講演をお聞きになられて守屋さんの心の中では、どういう変化があったのですか？

守屋 自分なりに、自分の目の前の課題に、逃げずに立ち向かえばいいんだって。とても勇気が湧いてきました。

鬼丸 講演で紹介した、子ども兵や地雷といった課題ではなく、自分の目の前の課題に向き合えばいいんだと思えたとは、どういうことなんですか？

守屋 僕は、すごく観念的になることが多いんです。このような課題を知ったら、こんな活動をしなければいけないと、「あるべき」論に捕われる。けれども、そんな風に考える必要は一切ないんですよと、鬼丸さんが言うてくださったように僕は受け止めたんです。つまり僕(鬼丸)は、こうやってこの課題と出会ったので、だから活動をやっているのだけれども、別にみなさん全員がアフリカで起こっている問題に立ち向かわなきゃいけないとは思ってないんです。みたいなことをおっしゃっていたように感じました。

世界の課題は、わたしの目の前の課題とつながっている

鬼丸 なるほど。僕は講演するときに、こんなことを思っています。みんなが、子ども兵問題に関わる必要性もないし、みんなが地雷問題に関わる必要性もないと。それぞれが、目の前の課題に向き合うこと、目の前の課題に取り組んでいく人が増えれば、結果として、そのような問題が起こる社会は変わるよねって。

守屋 よく鬼丸さんが、講演でお話しされる『当事者性』とか、『課題を自分事にする』っていう言葉につながることでですね。あなたも、大きな社会構造の中の当事者なんだっていう。決して、自分だけのことを考えればいいというわけじゃないんだけど、自分の今の目の前の課題にちゃんと向き合って、解決に向けて一歩を踏み出せば、結果として鬼丸さんが解決しようとしている社会問題ともつながってくる。だから僕は、立場や仕事が違っていても、問題解決の同志として、つながっているんだみたいな。そういう言葉をメッセージとしてもらったのが、ものすごく嬉しかった。

鬼丸 嬉しかったっていうのは、具体的にどういう感覚ですか？

守屋 様々な課題にどう向き合えばいいのかという『あり方』について、答えをもらった。それが嬉しかったんだと思います。**鬼丸** 僕の講演のなかでは明確に、あり方が大事だ。生き方はこうだ。とかは言ってもなかったですよ。でも、それを言わなくても、なぜか感じ取ることができるっていうことですか？

聞き手の「自分」が見えてくる

守屋 鬼丸さん自身のお話って「僕はこう

思います」って、鬼丸さんが自分でどう思ってたのかわかっていうのを、ひたすら語るだけ。ただ、その語りの中で、常に、「みなさんはどうですか？」と、問いかけてるんですよ。

つまり、僕なりに感じるのは鬼丸さんの中に聞き手の『自分』が見えるんですよ。課題に対して、悩んだり苦しんでいる。自分。逆に、課題に果敢に取り組む自分。様々な自分を重ねるのだと思います。それは、鬼丸さんから聞いた話を僕が他の人に話しても、同じようには感じてもらえない。だから、鬼丸さんの話を一度聞いてみたら、周囲に勧めるようになるのです。

鬼丸さんが取り扱ってらっしゃる社会課題はものすごく重たい。けれども、それをすごく身近に感じさせるんです。鬼丸さんの講演は、なんか笑いがでちゃうというか、楽しめちゃう。かつ、その課題とちゃんと向き合える。自分にとって、課題解決に向けて、こういうことができるかもって。そういう意味で、自分が社会の役に立つ人間だということ、すごく感じ取れる。だから、僕は勇気をもらえたって思ってます。

鬼丸 守屋さんにそうおっしゃっていただけで光栄です。お互いさま、それぞれの活動で、世界を勇気で満たしてまいりますよ。ぜひ、これからご指導ください。

守屋 智敬

もりや ともたか ● 1970年大阪生まれ。95年神戸大学大学院修士課程修了後、設計事務所に入所。地域再開発計画のコンサルティング業務や地域振興プロジェクトに従事。99年、人材系コンサルティング会社・HRインスティテュートの立ち上げ期に参画。以来16年にわたり、経営戦略策定、組織開発プログラムを通したリーダー育成にチーフコンサルタントとして活躍。現場で起こっている課題を解決する組織開発コンサルティングも数多く手がけてきた。2015年、株式会社モリヤコンサルティングを設立。

鬼丸 昌也

おにまる まさや ● 高校在学中にアリヤラトネ博士(スリランカの農村開発指導者)と出逢い「すべての人に未来をつくる力がある」と教えられる。様々なNGO活動に参加する中で、異なる文化、価値観の対話こそが平和をつくりだす鍵だと気づく。2001年、立命館大学在学中にNGO「テラ・ルネッサンス」設立。テラ・ルネッサンス理事。

未来を拓く ファンドレイジング



小田 起世和
認定NPO法人テラ・ルネッサンス

田才 諒哉
READYFOR株式会社

NPOにおいて活動資金の調達(ファンドレイジング)は重要な課題である。寄付をはじめとする方法は様々であり、昨今はインターネットを活用した『クラウドファンディング』という資金調達の手法が大きな盛り上がりを見せている。2016年6月、コンゴ民主共和国で紛争被害にあった女性たちを対象とした自立支援プロジェクトのため、目標金額420万円のクラウドファンディングを実施。その結果、170名からのご支援をいただきプロジェクトを無事に達成することができた。READYFOR株式会社の田才諒哉さんを迎え、この度のプロジェクト事例をもとに、テラ・ルネッサンスの広報・ファンドレイジングについて考えていく。



READYFORのプロジェクトページでは、ミシンの前で微笑む女性の写真を採用した。(写真:上)その他にも、洋裁の訓練に取り組む様子や、完成した商品を嬉しそうに見せてくれる笑顔の写真を多様したことで、プロジェクト実現後のイメージを想起できるような広報につとめた。クラウドファンディングでのプロジェクト終了後、2016年10月時点で、洋服屋さん開業のための訓練や、そのためのミシンを供与するなど、晴れて『幸せな洋服屋さんプロジェクト』をスタートした。念願だったコンゴの女性たちの自立支援をはじめることができ、とても嬉しい。これからも、随時プロジェクトの経過報告をお知らせしていきたい。

テラ・ルネッサンスの 広報とファンドレイジング

小田 広報から資金調達の計画まで、田才さんにはたくさんアドバイスをいただきました。あらためて聞きたいんですが、今回のプロジェクトの達成見込みってどうだったんですか？

田才 団体の事業規模や認知度から考えて、大丈夫だと思ってました。ただ、みなさんから『鬼丸さん以外のスタッフでやりたいんです！』っていう要望がくることは想定してなかったんですけどね(笑)。それでも僕らとしては、ただプロジェクトを達成してもらっただけじゃいけないんだということとをあらためて感じました。クラウドファンディングを実行する組織や個人の成長に寄り添うようなプロジェクトの設計がやっぱり重要なんだなって。

小田 そうですね。テラ・ルネッサンスはこれまで、創設者の鬼丸が主体となって活動資金を調達してきました。ですが、組織の成長をはじめとして、従来のままではいけないと感じていました。今回、鬼丸以外のスタッフが主体となり活動資金を集められたことで、組織としても成長することができたんじゃないかなと思います。

田才 それに、インターン生のみなさんが主力でしたよね。それで達成したことって、

伝えたいうえで、そのための解決方法が魅力的だったというか、とても明るいイメージだったんです。ミシンの前で控えめな笑顔を見せる女性の写真ですが、どこか少しだけ自信のにじむような力強さを感じましたし、『幸せな洋服屋さん』という名前をつけたことも良かった。未来が拓けるようなファンドレイジングだったなって思ってます。

小田 そう言ってもらえて嬉しいんです。問題や課題を知ってもらおうことって、とても重要なんですけど、大切なことはもう一つあって、それを解決した先で、こんな未来を実現できるから、それを一緒に作りませんか？っていう。活動の価値をしっかりと届けていくという感じでしょうか。

NPOをはじめ、公益組織へのコンサルティングをしている株式会社パブリコの山元さんから、『ファンドレイジングは、お金集めじゃなくて仲間(＝ファン)集め』ということを教えていただいたんです。今回のプロジェクトでもまさにそうでしたが、170名の『ファン』の方々に価値を届けていくことができ、共感のかたちとして支援いただくことができたので、プロジェクトを達成できたと思っています。

田才 ほんとにそうですね。ちょっと極端ですけど、関わりがない理由がない、支援しない理由がないという風にまでなるといい

すごいと思う。

小田 はい、それはとても嬉しかったですね。なかでも、リレー形式でプロジェクトにかける想いをお伝えしていく企画は面白かったと思います。記事の読みやすさや、情報を拡散してもらええる工夫を一生懸命に考え、実践してくれました。

クラウドファンディングにかぎらず、まずは内部の私たちが盛り上がることで重要だと思っんですね。熱をもって伝えていける人がいないと、そこに共感してくれる人も少ないのかなと。

問題を解決した先にある 未来(＝価値)を提示したい

田才 大変だったことってなんですか？

小田 そうですね、基本的な広報はこれまでと一緒だったので、そこは不安でした。例えば、他の団体さんの場合だと新商品の発表も兼ねたような広報ができていたので、すごく上手だなって。

田才 なるほど。テラルネさんの場合、僕がいいなと思ったのは、やっぱり見せ方だと思っってます。多くの国際協力系の団体さんの場合、『途上国はとても悲惨な状況で、だから助けてください！』ってかたちで終わることが多い。でも、テラルネさんはそうじゃなくって、そんな状況があることを

かなと思っけて。クラウドファンディングに取り組む団体さんをお手伝いするときには、そんな状況をつくれるように、共感をよべるストーリーかな、返礼品は素敵かなとかを考えてやっています。

つくる、みつける 広報とファンドレイジングの未来

小田 こういう表現が正しいかはわからないんですけど、服を買ったり食事をしたりする感覚に近いと思うんですね。NPOの場合だと、社会課題の解決に取り組んでいる団体に共感したから支援しようっていうことが。でもそれだと『支援する』って言葉じゃない気がするんですよ。もっと他の言葉があるんじゃないかなって思っています。

田才 僕もそう思います。新しい言葉をつくっていくのかもしれないですね。テラルネさんの他に、カンボジアの児童買春の問題解決に取り組む、かものはしプロジェクトさんなんかも、NGOの新しいあり方を示しているような存在だと思います。だからこれからも応援しています。

小田 ありがとうございます。面白くしていきたいですね、頑張ります。これから



岡本 美穂

認定NPO法人テラ・ルネッサンス
インターン

19

(※1)ウガンダスタディーツアー(協力:株式会社マイチケット)



延岡 由規

認定NPO法人テラ・ルネッサンス
フェロー

18

インターンの視点とテラ・ルネッサンス 世界の裏側を無視しない

「あなたは世界を変えられますか。」
こう問いかけられたら、どのように答え
ますか。私は迷わず、「はい」と即答するで
しょう。

世界の問題に初めて関心を抱いたのは小
学3年生の時です。道徳の授業で児童労働
に関する話を聞いたのです。当時サッカー
少年だった私は、インドで同世代の女の子
がサッカーボールの手縫いの仕事を強制さ
れているという事実、胸が張り裂けそう
なほどの衝撃を受けました。自分が笑顔
を浮かべているこの瞬間に、世界のどこか
は涙を流している人がいる。自分たちの便
利で快適な生活は、血に染められた生活を
送る人の上に成り立っている。

そこで、私は決めました。「世界の裏側を
無視しない大人」になろうと。
私にとっての世界平和には、「笑顔」とい
う要素が必要不可欠です。

2015年度、私は当会ウガンダ事務所
にて長期派遣インターンとして活動をしま
した。実情を知れば知るほど、元子ども兵
が抱える課題の複雑さ、それに対する自分

の非力さに、何度も心が折れそうになりま
した。そんな時、支えとなったのは施設に
通うみんなの笑顔、元少女兵が連れて帰っ
てきた子ども達の笑顔でした。

「ユウキはそこにいるだけでいいんだよ」
言葉は通じなくとも、笑顔がそう語って
くれているような気がして、不思議と心が軽
くなるのです。

『すべての生命が安心して生活できる社
会』を実現するにあたって、私は笑顔の連
鎖を広めたい。自分の笑顔があなたの笑顔
をつくる。あなたの笑顔がまた、誰かの笑
顔をつくっていく。その連鎖を地球の裏側
まで広めていく。これ以上、世界が悲しみ
の涙で溢れないように。

私一人だけでは到底変えることのできな
いこの世界で。生きる力を分けてくれた、
たくさん「あなた」そして今、これを読
んでくださっている「あなた」。あなたの笑
顔と共に、平和な世界に向けて歩を進めら
れることに感謝して。あなたの、そして私
自身の笑顔を大切に、「今」を丁寧に生きて
いきたいと思えます。

インターンの視点とテラ・ルネッサンス 愛に溢れた平和な世界に

どんな人にもきくと、その人が生きてい
るだけで幸せ、と思える人はいるはずで
す。と同時に、あなたが生きていることもまた、
誰かの支えになっています。そんなことを
わたしはこの夏、テラ・ルネッサンスのスタ
ディツアー(※1)でウガンダへ行った経
験を通じて実感しました。生きていって
それだけで素晴らしいことで、良いことも
悪いこともたくさんを経験しながら、
多くの人に出会っていきます。そんな風
にたくさん縁がめぐりめぐって今のわたし
がいます。どんな人にも、一人ひとりの歴
史があって、想いがある、出会えてよ
かったと思える大切な人がいる。大切な人
の大切な人を辿っていけば、地球の裏側に
だって辿り着く。なんだかそう思えば、「他
人」なんてこの世界に1人もいなくて、「関
係ない」ことも一つもないんだと思います。

マザー・テレサの有名な言葉にあるよう
に、愛の反対は無関心です。「遠い国で誰か
が苦しんでいてもわたしには関係ない」な
んで、寂しいこと言わないでほしい。わた
しにとっての平和な世界は愛に溢れた世界

です、なんて言ったら、ただの綺麗事に聞
こえるかもしれません。けれど、綺麗事を
素直に言える人は、心からそれを願って
いる人だって、どこかで聞きました。

世界はもともと愛に溢れた場所にな
れると思います。でもそのためには、一人
ひとりの力が必要です。世界は、社会は、
人が集まってできているもの。わたしが変
われば、あなたが変われば世界はほんの少
しかもれませんが、確実に変わる。変化
が変化を呼び、輪のように広がってその変
化はきくと地球の裏側に届きます。そう
やって世界が前に前に進んでいけば、いつ
か必ず平和な世界が来ます。『ひとり一人に
未来をつくる力がある』わたしは周りの人
をみんな巻き込んで、『すべての生命が安心
して生活できる社会』を実現したい。ゴー
ルがあるのか、どこなのかはわからないけ
れど、いつかそんな日が訪れた時には平和
を願った人みんなとともに笑って迎えられ
ますように。そんな未来を夢見て、今生き
ていることに感謝し、すべての出合いを大
切にして生きていきたいと思えます。



善きことは、カタツムリの速度でうごく

ゆっくりでいい

大切なのは、動いているという事実と、
その姿そのもの

コンクリートの隙間に小さい花が咲いていた。

まっすぐに太陽の方を向いている。誰かにキレイと言ってほしい、他人によく思われたい、これがしたい、もっと欲しい、どこかに行きたい、良いも悪いも、好きも嫌いも、本当も嘘もない。ただ、そこに種が落とされたから、そこにある与えられたすべての今を生きている。アフリカで会った子ども達と重なった。なんて美しいのだろう。すごくうらやましかった。「そんなに慌ててどこ行くの?」と言われたみたいだった。

先進国と言われる国に生きてるわたしは、足りないものなど無いはずなのに、もっとももっと、生き急いでいる。彼らは語らず教えてくれる。もうそろそろ帰ろう、やすらかでおだやかな、ありのままのわたしに。



上野 知子

認定NPO法人テラ・ルネッサンス
パート職員

22

平和とは、衝突のない世界。人々が調和し、協力しあうことが、平和な世界に生きることだと思います。

村で争いがあった時は、双方から意見を聞き、原因を理解します。泥棒に入ってけんかになっているのなら、盗んだ理由を聞きます。理由が、「お腹がすいていて死んでしまうと思ったから」というのであれば、食べ物を少し分けてもらえるよう話し合うこともできる。こうして平和を構築していくことができるのです。

ブルンジでは、「アマホロ（平和という意味）」が挨拶になっています。そこには、私たちの平和への願いが込められています。



エジマナ・パシフィック

認定NPO法人テラ・ルネッサンス
ブルンジ事務所 プロジェクトコーディネーター

23

平和とは、イノチ在るものひとりひとりが互いを思いやる気持ちを大切に、皆で作上げていくものだと感じます。武器や核兵器を用いて争いをし、多くの犠牲者が出てしまうことがない事が平和な世界と言うことはあたりまえですが、メディア等で様々な情報を聞き、実生活でも少しの経験を積み重ねた今では、必要なのは、周りや自分自身が混乱を起こすことのないようにし、身近な人を憎まないよう毎日大切に過ごしていくことも平和だと感じています。



佐々木 静江

認定NPO法人テラ・ルネッサンス
大槌復興刺し子プロジェクト
パディ(パート職員)

24

内側の視点とテラ・ルネッサンス

わたしの考える平和

テラ・ルネッサンスの活動は、多くの仲間のチカラのうえに成り立っています。それは団体の外側だけでなく、内側を構成している職員やスタッフも同様です。アジアやアフリカ、そして日本のそれぞれの現場で活動しているスタッフから、平和についてのメッセージをお届けします。

私にとって平和とは、自分の意見や権利を自由に主張でき、誰にも邪魔されることなく恩恵を享受できることです。平和構築の基礎は、信頼関係を築くこと。お互いの溝を埋めることです。そして和解への道は、対話だけではありません。カウンセリングや音楽、ダンス、演劇などの活動と一緒に進む過程で、お互いを許し合うこともそうです。

私たちは常に愛や希望、許し合う心を持ち、人の意見を真摯に聴き、他者を尊重するというのを忘れずにいるべきなのです。



オジャラ・サンデー

認定NPO法人テラ・ルネッサンス
ウガンダ事務所 心理社会支援担当

20

私は、カンボジアの内戦時代の大変な時を過ごし、そして14歳のときに地雷を踏んで足を切断し、自分で死ぬことも考えていました。しかし、今は自分の心の中に平和があります。

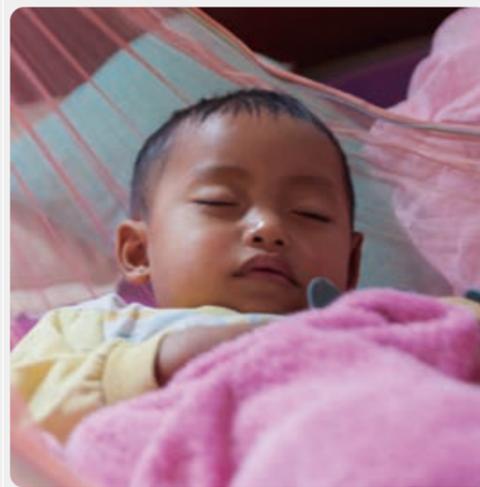
こうした経験をしてきたからこそ、子どもたちのために、平和がすごく大切だと思います。もし自分の目の前に問題を抱えている人、落ち込んでいる人、困った人がいたら、自分の周りの人たちが、私が死と向き合っていた時に「絶対に人生の中には良いこともあるよ」と支えてくれたように、人生は悪いときばかりではないことを伝え、生きることの大切さを伝えたいです。



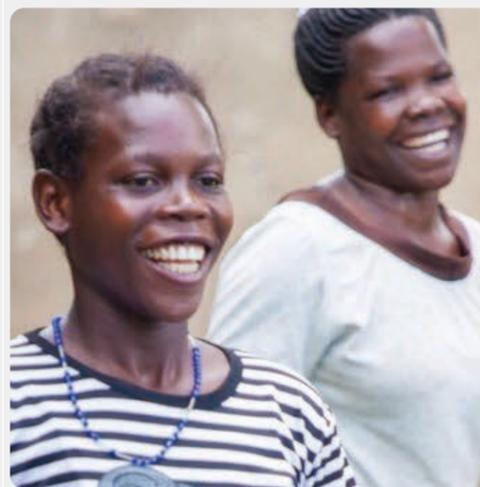
ヨート・イエト

認定NPO法人テラ・ルネッサンス
カンボジア事務所 経理担当

21



一人ひとりに未来をつくる力がある
わたしにも、あなたにも



Gold Partner
ゴールドパートナー _____ **4** 社・団体

Silver Partner
シルバーパートナー _____ **8** 社・団体

Anniversary Partner
アニバーサリーパートナー _____ **10** 社・団体

Anniversary Partner
アニバーサリーパートナー

石坂産業株式会社



武丸武建設株式会社

株式会社ヤマオコーポレーション



Crème de la Crème
Chou à la crème SHOP & CAFÉ
www.cremedelacreme.co.jp



第三文明

四国管財株式会社

jupiter
株式会社 ジュピター

UCHIYAMA HOLDINGS
ウチヤマホールディングス グループ
東証一部上場(証券コード:6059)



カンボジア、バタンバン州のプレアプット村において
教育支援を受ける子どもたちの様子。

撮影：延岡由規(フェローシップ：2016年度)

設立 15 周年イベントならびに
記念誌へのご協賛をいただき
心より御礼申し上げます。



15周年おめでとうございます 英治出版はテラ・ルネッサンスを応援しています。

Publishing for Change

よりよい変化をもたらす人を、Publishingを通じて応援する。

私は、走ろうと決めた。
コンゴで蔓延する性暴力に立ち向かい、強く生きる女性たち。

Because I am a Girl
世界を代表する7人の作家が描いた、名もなき女の子たちの物語。

アフリカ 希望の大陸
これまでの固定観念を覆す、リアルなアフリカの姿。

祈りよ力となれ
紛争を終わらせたのは、女性たちの声だった。ノーベル平和賞受賞者の自伝。

英治出版 東京都渋谷区恵比寿南1-9-12 ビトレスビル4F Tel 03-5773-0193 Fax 03-5773-0194 お求めはお近くの書店または英治出版オンラインストア (ejipress.co.jp/store) で。

「一食を捧げ 一欲を節する運動」

私たちは、**ウガンダ元子ども兵社会復帰プロジェクト**を応援しています。

松緑神道大和山

〒039-3351 青森県東津軽郡平内町外童子瀧ノ沢 12-13
TEL : 017-757-2241 FAX : 017-755-3570
URL : <http://www.yamatoyama.jp>

今年訪問した社会復帰センター「スマイルハウス」前 (2006年建設)

京都・滋賀の住設機器 管工機材のことなら、私たちにお任せ下さい！

株式会社 ヒトミ

京都府京都市伏見区深草西浦町 8 丁目 133-1・2
TEL: (075)642-4121 HP: <http://www.hitomi-net.jp/index.html>

中井隆栄経営塾 『幸せな成功者』育成塾
塾長 中井隆栄 & 塾生一同

私たちは、認定NPO法人テラ・ルネッサンスを応援しています。

仕事、お金、人間関係の「悩み」が解決し、次々と夢が叶い出す
年収3,000万円から1億円の経営者を次々輩出する日本最高峰の経営者養成講座

中井隆栄経営塾
『幸せな成功者』育成6ヶ月間ライブコース

塾生数 1,000名 突破! <http://www.magicclamp.co.jp>

もう一つの、あなたの持続可能性をお手伝いする

フレマ株式会社
<http://prema.co.jp>

自然・健康食品、エコ雑貨、ナチュラルスキンケア、有害物質対応グッズ、能力開発の小売・卸・貿易業

店舗 プレマルシェオーガニクス 通販サイト びんちょうたんコム
〒604-8331 京都市中京区三条通猪熊西入御供町 308 <http://binchoutan.com/>

Yakult

「健康で美しく。免疫ライフ 創造パートナー」

水戸ヤクルト販売株式会社 代表取締役社長 内藤 学
〒311-4164 水戸市谷津町1-35 水戸西流通センター内
TEL 029-251-8960(代) FAX 029-254-7276

一般社団法人 **桐の家 記念館**

桐の家、みどり溢れる庭園
熱南西山の地が終の栖となりました。
「世のため、人のため」の信条を貫いた経営の神様 船井幸雄の生きざまをぜひ、感じてみてください。

●開館日/金・土・日・月曜日 ●開館時間/10時~16時
●入館料/300円(税込)

〒413-0034 静岡県熱海市西山町 19-32
<http://funaimemorial.com> TEL. 0557-86-5151

モンドセレクション2年連続最高金賞受賞
高品質ホエイプロテイン

トップアスリートも絶賛!

山口美咲 丸佳浩

beLEGEND ビーレジェンド 1kg ナチュラル(ミルク風味) 2,600円~

ご注文・お問い合わせはお電話またはwebから
0120-242-044

株式会社 Real Style 〒635-0061 奈良県大和郡高市橋町東1-10上田ビル5F [電話受付時間]平日10時~18時

働き方を変革する

人生のほとんどを過ごすオフィスを生き生きとさせ、日本の職場環境や働き方・仕事感を変えていくことで日本を元気にしたい。

株式会社 ウエダ本社
ueda-h.co.jp

この人の笑顔のために
~地域のみなさまと共に笑顔のあふれる町を作りたい~

社会福祉法人かずさ萬燈会

高齢者部門 ☎0438-97-2721
特別養護老人ホーム・ショートステイ・デイサービス・ホームヘルパー・ケアハウス
居宅介護支援事業所・有料老人ホーム・地域包括支援センター

障害者部門 ☎0438-97-8555
障害者支援施設・就労移行施設・グループホーム・相談支援事業所

SAKAGO

子どもたちの未来のために

教育事業部 **教育セミナー**
「生徒に一生懸命」をモットーに、兵庫県下でも有数の難関大学進学率を誇る姫路西・東高の合格者数18年連続学区No.1となっています。

農業事業部 **ジエイ農園**
農業・化学肥料・除草剤を使用せず、できる限り自然に沿った方法で、「安全」「安心」「新鮮」「健康」な作物の栽培に挑戦しています。

新規事業部 **修学荘**
教育事業部・農業事業部と連携し、「実感」を重視した教育を提供することをめざして、鳥取県大山に合宿体験施設を開設・運営しています。

株式会社 ジエイ教育システムズ
鳥取県姫路市東本末1-1 住友生命姫路ビル6F TEL 079-288-6070
MAIL systems@js-educ.co.jp WEB <http://www.js-educ.co.jp>

自然に学び、自然に帰る 地球を輝かせ隊

「自然に学び、自然に帰る」をモットーに、美しく健やかに生きるために必要な情報・近未来の商品をいち早くお届けし、21世紀にふさわしい元気な暮らしをご提案させていただくことを使命としています。

価値ある情報が満載!
お気軽にお問い合わせください。
無料でお届け!

元気な暮らし 10
超・低糖質・低カロリー
京都本社 〒619-0223 京都府木津川市相楽台9丁目1番1号

0120-15-1846



テラルネグッズ プレゼントコーナー



1 春の特別ギフトセット(3名様)

深いコクが特徴のウガンダ産ドリップコーヒーと、香ばしい胡麻を練り込んだクッキーをセットにしました。アフリカ気分を満喫できる、豊かなひとときをどうぞ。



2 ウガンダからの贈り物(1名様)

洋裁の職業訓練に励む、元子ども兵の気持ちに詰まったバッグです。完全に同じ柄は存在しないウガンダの布で作った一点モノ。支援者のみなさまの想いが一つの形になりました。※写真はイメージです。



3 お母さんの手作りボタン(5名様)

大槌町のお母さんたちが手作りしているくみボタン(ヘアゴム、ボタンの直径約4cm)。刺し子の刺繍をほどこしたデザインが、特に女性の方に人気です。なお、ボタンの柄はこちらで選定させていただきますのでご了承ください。

プレゼントの応募方法

◇応募はがきにく氏名、住所、メールアドレス、電話番号、ご希望の商品番号、「あなたがpeace(平和やしあわせ)を感じた瞬間」>を記載のうえ、52円切手を貼ってポストへ投函してください。当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます(発送時期:平成29年2月~3月末)。

◇応募の締切は、【平成29年1月31日(火)※当日消印有効】までです。

◇個人情報の取扱について、お預かりした個人情報は、商品の発送にのみ使用させていただきます。第三者に提供又は開示することはありません。



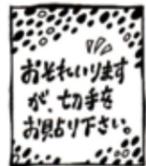
表紙デザインの撮影の様子

- 2016.10.27 -

キリトリ ✂

郵便はがき

〒600-8191



認定NPO法人
テラ・ルネッサンス行
京都府京都市下京区
五条高倉堀町21番地
jimukinoueda bldg. 403号室

キリトリ ✂

ご住所	〒 都道府県
ご連絡先	MAIL
フリガナ	
お名前	



第46回 社会貢献者賞

【公益財団法人 社会貢献支援財団】

人々や社会のためにつくした個人・団体を表彰する、『社会貢献者賞』。

公益財団法人京都オムロン地域創造基金さまに推薦いただき、
第46回社会貢献者表彰式典において、京都社会貢献の功績部門で受賞いたしました。

2001年、一人の「伝える活動」から始まり、
徐々にアジアやアフリカ、そして国内での活動を進めること15年。

今回の受賞は、「すべての生命が安心して生活できる社会（世界平和）の実現」に向け、
ともに歩んでくださる皆様や、紛争被害にあいながらも
力強く立ち上がろうとする人々の存在の上で、
結び付いたものであると感じています。

世界平和の実現に向けた、更なる貢献ができるよう、
これからの15年も皆様とともに活動を進展して参りたいと思います。

認定NPO法人 テラ・ルネッサンス 理事長 小川 真吾

設立15周年記念誌

TERRA RENAISSANCE 15TH ANNIVERSARY MEMORIAL MAGAZINE.

2016年11月6日発行

編集 / 発行
認定NPO法人テラ・ルネッサンス
〒600-8191 京都府京都市下京区五条高倉角堺町21番地
jimukinoueda bldg. 403号室

TEL : 075-741-8786
E-mail : contact@terra-r.jp Web : www.terra-r.jp
Facebook : terra.ngo Twitter : @terra_ngo

本書の一部または全てを複写・転載引用する際には、
予めテラ・ルネッサンス事務局までご連絡ください。
©2016 Terra Renaissance

編集後記

「一人ひとりが平和のかけら- peace by piece -」。15周年記念イベントをはじめ、本誌コンセプトに据えたその言葉から、一人ひとりの想いが垣間見えるような記念誌の構成としました。「世界の扉絵シリーズ」は、テラ・ルネッサンスが活動15年の中で培ってきた思想や哲学を、これもまたひとつの想いとして具現化していった実験的な試みです。表紙のモチーフとなった金平糖のように、凸凹の個性が環境にゆるやかな隙間を生むことで、私たちはそこに新たな「平和への可能性」との出会いを得ることができるのだと信じています。(小田)

今回の結晶母では、主に「世界の扉絵」ページを担当しました。設立15周年の特別版記念誌を制作するにあたり、テラ・ルネッサンスが歩んできた15年間を辿るとともに、私自身の人生、そして記念誌を手にとった皆さんの、歩んでこられた時間の中で、何か重なる部分があるのではないかと探求しました。かつてはきこえなかった足音が、今はすぐ側で、いくつも鳴り響いているのを感じます。今、この場にいられることに感謝しつつ、僥越ながら、「世界の扉絵」ページを通じて、皆様のお心と少しでも繋がることができましたら、幸甚です。(辻本)

現地・国内職員とのやりとりを通し、主に、現地の協働団体や受益卒業生からのメッセージを集めました。出会ったすべての方の存在無くしては歩み続けられなかった15年間。今後も、より多くの方とともに、平和への歩みを進めていきたいと強く思います！たくさんのお会いや想いが詰まった1冊、ぜひお楽しみください！(岡崎)

主に「15年総覧」ページを担当しました。15年という歩みの中でたくさんのお会いがあり、そこから新たな可能性・解決策が生まれていく過程をたどることができました。この15年は、皆さまとともに道をつくり、歩んできたのだと思います。今、こうして皆さまとともに平和への道を歩めていることに感謝しています。自分に自信がなかった私は「こんな私でもできること」を見つけたくてインターンを始めました。「私にしかできないことがある」今はそう信じ、この先も、平和を想う皆さまと一緒に歩み続けたいです。(杉本)

発行責任者
小川 真吾 (理事長)

編集 / デザイン
小田 起世和 (広報・ファンドレイジングチームマネージャー)

世界の扉絵 / 言葉
辻本 真貴子 (フェローシップ：2016年度)

世界の扉絵 / 写真
延岡 由規 (フェローシップ：2016年度)

制作管理アシスタント
岡崎 愛 (インターンシップ：2016年度)
杉本 真希 (インターンシップ：2016年度)

テラ・ルネッサンスからのプレゼント!!

- ① りんごからの贈り物(1名様)
- ② 春の特別ギフトセット(3名様)
- ③ お母さんの手作りボタン(5名様)

あなたにpeace(平和と幸せ)を感じた瞬間について、お聞かせ下さい!!

ご希望の商品番号

お寄せいただいた回答は、お名前をふせて、テラ・ルネッサンス facebookなどにて、ご紹介させていただきます。なお、当選者発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。(発送時期：2月～3月末)



*I was born in 2001.10.31
Thank you for 15th anniversary
25th of fellow is you
Terra Renaissance
2016.10.31*



ひとり一人に未来をつくる力がある
認定NPO法人 テラ・ルネッサンス

認定NPO法人テラ・ルネッサンス 公式サイト【 www.terra-r.jp 】 フェイスブック【 [terra.ngo](https://www.facebook.com/terra.ngo) 】 ツイッター【 [@terra_ngo](https://twitter.com/terra_ngo) 】
〒600-8191 京都府京都市下京区五条高倉角堺町21番地 jimukinoueda bldg. 403号室 TEL : 075-741-8786 E-mail : contact@terra-r.jp